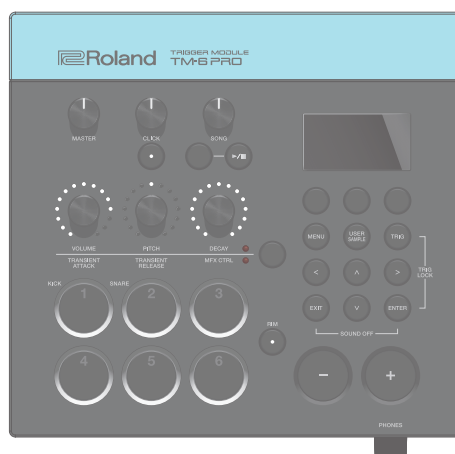


TRIGGER MODULE TM-6 PRO

リファレンス・マニュアル



目次

操作の流れ	3
キットとインストール	4
メモリーについて	5
準備する	6
各部の名称とはたらき	6
トップ・パネル	6
サイド・パネル	7
リア・パネル（接続する）	8
スタンドに取り付ける	9
電源を入れる／切る	10
基本操作	10
ショートカット一覧（[ENTER] ボタン）	10
接続できるドラム・トリガー	11
奏法について	12
接続できるフットスイッチ	13
トリガーの設定をする（TRIG）	14
トリガー設定の基本操作	14
ドラム・トリガーの種類を設定する	14
設定するドラム・トリガーが切り替わらないようにする（Trig Lock）	15
ドラム・トリガーの最低感度（Threshold）を調節する	16
ドラム・トリガーの感度（Sensitivity）を調節する	16
ドラム・トリガーの叩く強さに対する音量変化を設定する	16
トリガーを細かく設定する	17
ハイハットの設定をする	17
他のドラム・トリガーの振動による誤発音を防ぐ（クロストーク・キャンセル）	18
各ドラム・トリガーのトリガー情報を見る	19
演奏する	20
キットを選ぶ	20
クリックを鳴らす	20
曲に合わせて演奏する	21
ソングごとの設定を変更する	22
オーディオ・ファイルをクリックとして再生する（クリック・トラック）	22
内蔵デモ・ソングを再生する	23
編集する	24
インストールを選ぶ／エディットする	24
ドラム・トリガーごとにエフェクトをかける（パッド・エフェクト）	25
キット全体にエフェクトをかける（キット・エフェクト）	25
サウンド・モディファイつまみで設定する	26
キットの設定をする	27
キットの音量を設定する	27
ハイハットの音量を設定する	28
ドラム・トリガーを叩いたときに別の音をミュートする（ミュート・グループ）	28

キットごとにテンポを設定する（キット・テンポ）	28
キットの名前を変更する	29
オーディオ・ファイルを取り込む／鳴らす（USER SAMPLE）	29
オーディオ・ファイルを取り込む	29
ユーザー・サンプルをインストールに割り当てる／鳴らす	30
ユーザー・サンプルを一覧表示する	31
ユーザー・サンプルをエディットする	31
ユーザー・サンプルを整理する	32
便利な機能	33
エディット前のキットと聴き比べる／戻す（Undo）	33
設定をコピーする（Copy）	33
キットを順番に呼び出す（SET LIST）	34
セット・リストを作る	34
セット・リストを使う	35
SD カードにキットをバックアップする（1 Kit Save）	35
キット・バックアップ・データを SD カードから読み込む（1 Kit Load）	36
設定する（MENU）	37
設定の基本操作	37
MIDI の設定をする	37
キットごとに MIDI 送受信の設定をする	37
TM-6 PRO 全体の MIDI の設定をする	37
TM-6 PRO 全体の設定をする	38
音の出力先を設定する	38
データをバックアップする	39
パソコンと接続して鳴らす	41
USB ドライバーのインストール／設定	41
USB オーディオの出力を設定する	42
USB オーディオの入力を設定する	42
USB オーディオの入出力レベルを確認する	43
フットスイッチやドラム・トリガーに機能を割り当てる	43
その他の設定	44
一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする（Auto Off）	44
TM-6 PRO 本体に関する情報を表示する	45
工場出荷時の設定に戻す	45

エラー・メッセージ一覧	46
-------------------	----

トラブルシューティング	47
-------------------	----

主な仕様	48
------------	----

操作の流れ

接続

電源の準備

AC アダプター



OUTPUT 端子 / PHONES 端子

スピーカー /
ミキサー /
ヘッドホン



TRIGGER IN 端子 / HH CTRL 端子

アコースティック・ドラム・トリガー /
V パッド /
ハイハット・コントロール・ペダル



8 ページ

11 ページ

※ 以降、アコースティック・ドラム・トリガーやパッド類の総称を、「ドラム・トリガー」と呼びます。

トリガー設定

ドラム・トリガーのタイプを設定する

トリガー・タイプ

14 ページ

誤発音したときに感度を調節する

最低感度 (Threshold)

16 ページ

叩く強さと音の大きさのバランスを調節する

感度 (Sensitivity)

16 ページ

演奏

キットを選ぶ

[-] [+] ボタン

20 ページ

バックিং・トラック (オーディオ・ファイル) と演奏する

[SONG] ボタン

21 ページ

クリック音を鳴らす

[CLICK] ボタン

20 ページ

編集

インストをアサイン

インストのエディット

24 ページ

サウンド・モディファイ

サウンド・モディファイ
つまみ

26 ページ

WAV ファイルの取り込み

ユーザー・サンプル
のインポート

29 ページ

ユーザー・サンプルを鳴らす

インストにユーザー・
サンプルを割り当てる

30 ページ

機能を素早く設定する

ショートカット一覧

10 ページ

データをバックアップする

SD カードに
バックアップする

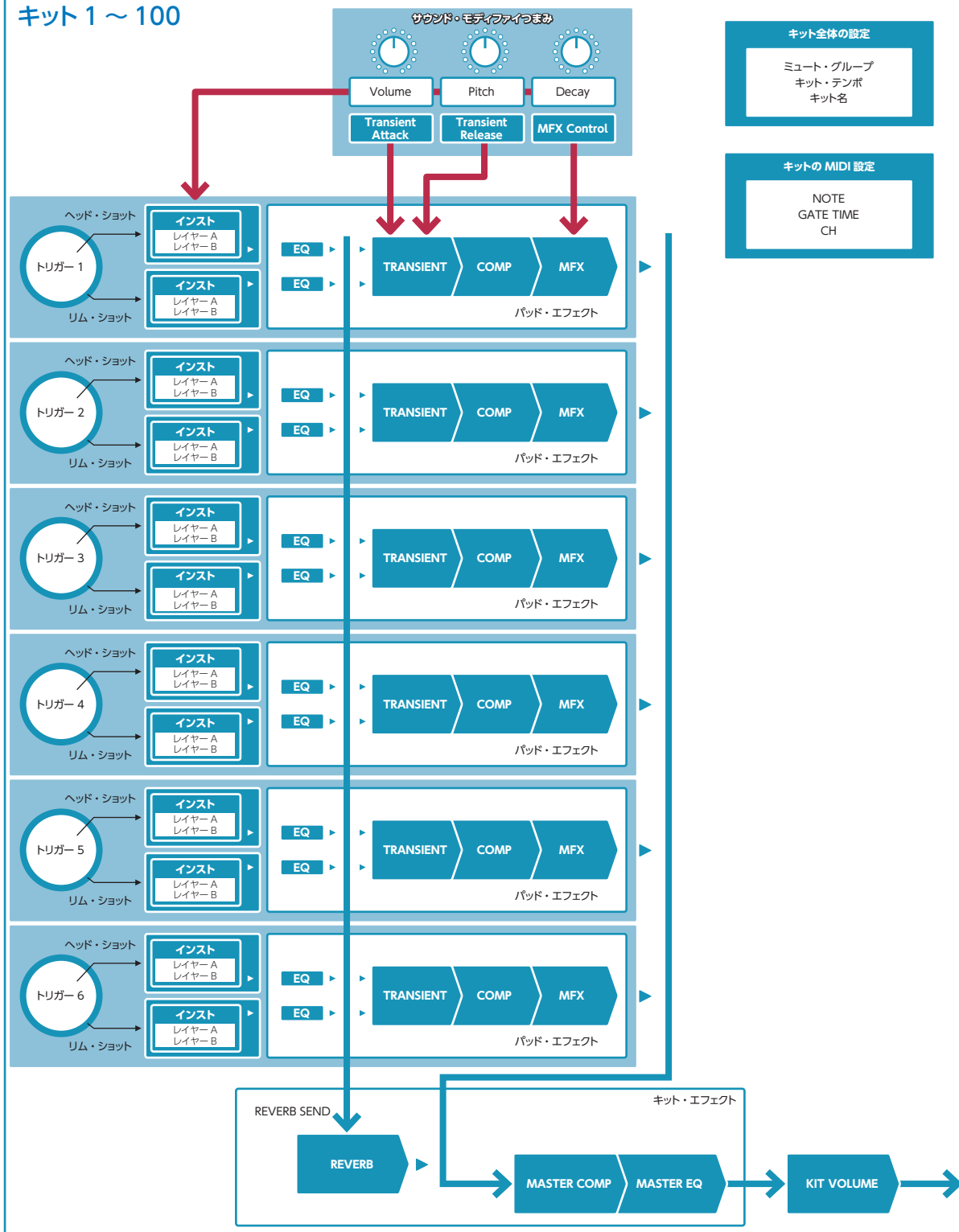
39 ページ

キットとインスト

TM-6 PRO では、接続したドラム・トリガーを叩いたときに鳴る音色を「インスト (INST)」と呼びます。各トリガーに割り当てたインストのセットを「キット」と呼びます。

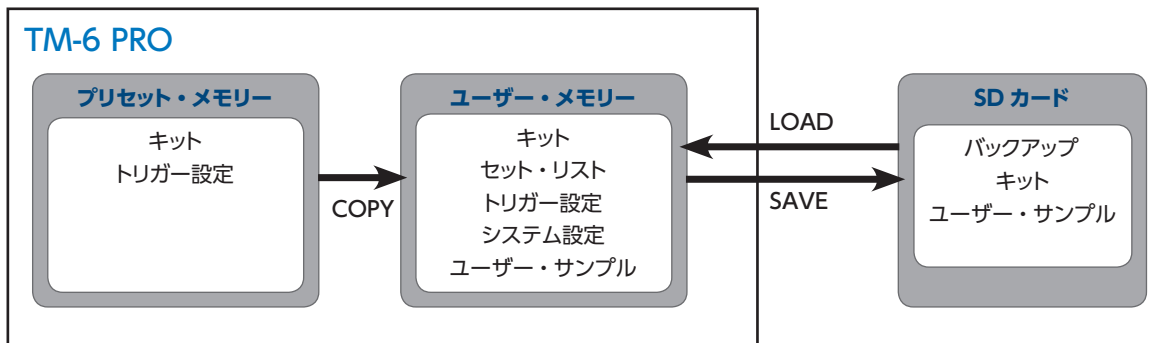


キット 1 ~ 100



メモリーについて

キットやトリガー設定などの設定が記憶（保存）されている場所を、「メモリー」と呼びます。



プリセット・メモリー

工場出荷時の設定が記憶されています。

プリセット・メモリーのデータ（キット、トリガー設定）をユーザー・メモリーにコピーして、工場出荷時の設定に戻すことができます（P.33、P.45）。

ユーザー・メモリー

エディットや演奏に使用する設定が記憶されます。

SD カードやプリセット・メモリーのデータを読み込む、またはコピーすることもできます（P.33）。

以下の設定が、ユーザー・メモリーに保存されています。

- キット（P.20）
- セット・リスト（P.34）
- トリガー設定（P.14）
- システム設定（P.38）
- ユーザー・サンプル（P.29）

SD カード

SD カードには、ユーザー・メモリーに保存されている設定を 1 セットとして、99 セットまで保存（バックアップ）しておくことができます。

バックアップとは別に、キット単体の設定を 999 個保存することができます。

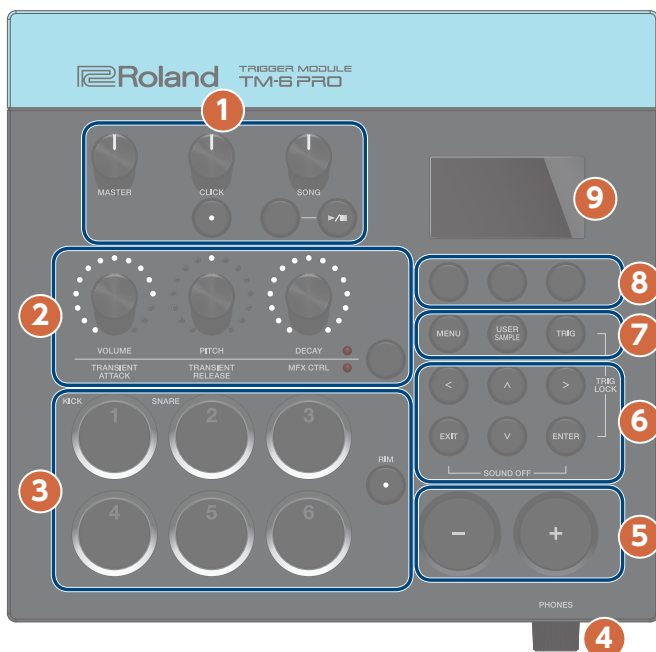
メモ

- SD カードに保存したデータは、ユーザー・メモリーにロードまたはコピーすることができます。詳しくは、「設定をコピーする（Copy）」（P.33）をご覧ください。
- SD カードのフォルダー構成については、「SD カードのフォルダー構成」（P.36）をご覧ください。

準備する

各部の名称とはたらき

トップ・パネル

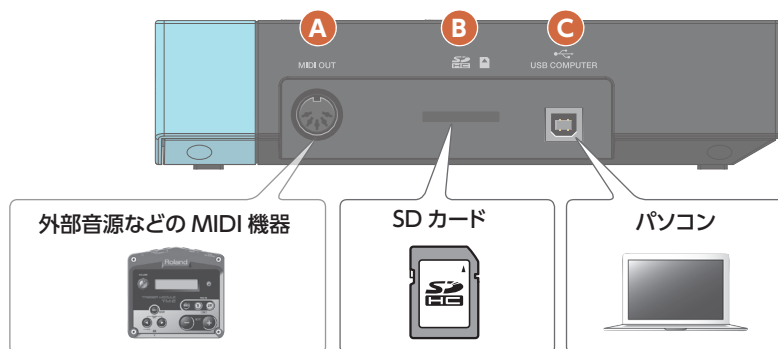


番号	操作子	説明	ページ
1	[MASTER] つまみ	MASTER OUT 端子から出力される音量を調節します。	-
	[CLICK] つまみ	クリックの音量を調節します。また、クリック・トラック (P.22) の音量を調節することもできます。	P.20
	[CLICK] ボタン	CLICK 画面を表示します。テンポなど、クリックに関する設定します。	
	[SONG] つまみ	ソングの音量を調節します。	
	[SONG] ボタン	SONG 画面を表示します。ソングに関する設定をします。	P.21
	[▶/■] ボタン	内蔵デモ・ソングや SD カードのソング (オーディオ・ファイル) を再生/停止します。クリック・トラックのあるソングは、クリック・トラックも同時に再生されます。	
2	サウンド・モディファイ・ボタン	サウンド・モディファイつまみで調節するパラメーターのグループを選びます。	P.26
	サウンド・モディファイつまみ	サウンド・モディファイ・ボタンで選んだグループのパラメーターを調節します。	
3	トリガー・ボタン	各トリガーに割り当てたインストの音を確認することができます。演奏や設定状態に応じて点灯/点滅します。	P.15
	[RIM] ボタン	[RIM] ボタンを押してボタンを点灯させるとリム側が選ばれ、リムのインストを設定したり、トリガー・ボタンを押したときにリムのインストを鳴らしたりすることができます。	P.15
4	[PHONES] つまみ	PHONES 端子に接続したヘッドホンの音量を調節します。	-
5	[-] [+] ボタン	キットを切り替えたり、値を変えたりするときに使います。	P.10

番号	操作子	説明	ページ
	[^] [V] [<] [>] ボタン (カーソル・ボタン)	カーソルを移動します。	-
6	[EXIT] ボタン	一度押すと、1 つ上の階層の画面に戻ります。続けて何度か押すと、最終的に KIT 画面に戻ります。	-
	[ENTER] ボタン	値の確定や操作を決定します。 [ENTER] ボタンを押しながら他のボタンを押すことで、さまざまな機能を設定することができます。	P.10
	[MENU] ボタン	インストやエフェクトの設定、TM-6 PRO 全体に関する機能などの設定をします。	P.37
7	[USER SAMPLE] ボタン	ユーザー・サンプル機能を設定するときに押します。 ユーザー・サンプルは、パソコンで作成したオーディオ・ファイルを、SD カードから TM-6 PRO に取り込み、インストとして鳴らすことができる機能です。	P.29
	[TRIG] ボタン	トリガー・パラメーターの設定をします。	P.14
8	ファンクション・ボタン	ディスプレイの表示によって機能が変わるボタンです。ディスプレイ下部に表示されているタブを切り替えたり、機能を設定したりできます。	P.10
9	ディスプレイ	操作に応じて、いろいろな情報を表示します。	-



サイド・パネル



番号	端子	説明	ページ
A	MIDI OUT 端子	外部音源などの MIDI 機器を接続します。 MIDI チャンネルやノート・ナンバーを設定して、外部 MIDI 機器をコントロールすることができます。	➡ PDF
B	SD カード・スロット	市販の SD カード (SDHC カード (32GB) まで対応) を挿入します。 SD カードには、TM-6 PRO のデータを保存することができます。 また、ユーザー・サンプルの取り込みや、ソング (オーディオ・ファイル) の再生にも使います。 ※ 初めて SD カードを使うときは、必ず TM-6 PRO で SD カードを初期化 (フォーマット) してください (P.40)。 ※ 画面に「Processing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、SD カードを抜いたりしないでください。	-
C	USB COMPUTER 端子	TM-6 PRO とパソコンを USB ケーブルで接続します。 DAW ソフトウェアを使って、TM-6 PRO の演奏をオーディオや MIDI で録音したり、パソコンで再生した音を TM-6 PRO で鳴らしたりすることができます。	P.41

リア・パネル (接続する)

FOOT SW 端子

フットスイッチ (別売: BOSS FS-5U、FS-6) を接続して、さまざまなコントロールができます (P.43)。



HH CTRL 端子

TRIGGER IN 6 端子と組み合わせると、ハイハットのオープン/クローズを演奏できます。

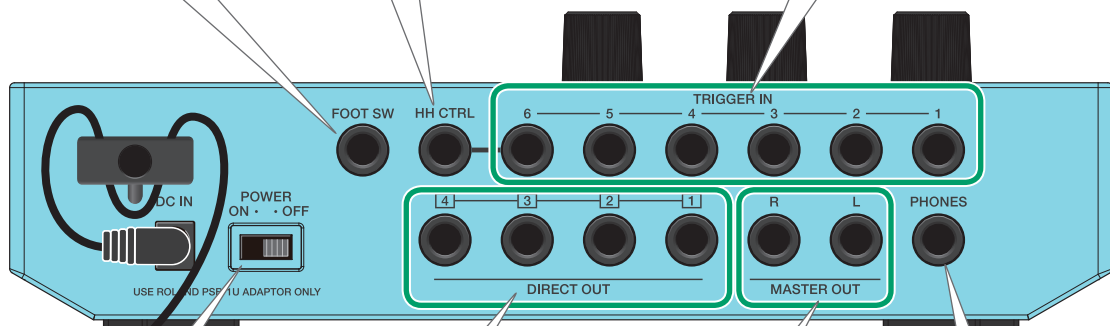
※ ハイハット・カテゴリーのインストのみ対応しています。



TRIGGER IN 1 ~ 6 端子

アコースティック・ドラム・トリガー (別売: RT シリーズ) / パー・トリガー・パッド (別売: BT-1) / パッド類 (別売: PD / PDX シリーズ) などを接続します (P.11)。

それぞれに付属しているケーブルで接続します。



[POWER] スイッチ

電源をオン/オフします (P.10)。

DIRECT OUT 1 ~ 4 端子

ミキサーなどに接続します。各インストなどを DIRECT OUT 1 ~ 4 のどの端子から出力するかは、Output Assign ([MENU] ボタン → SYS → Output Assign) で設定します (P.38)。



MASTER OUT 端子

音を出力します。アンプ内蔵スピーカーやミキサーなどに接続します。モノ入力のアンプに接続するときは、Master Mono Sw ([MENU] ボタン → SYS → Output Assign (SETUP タブ)) を設定します (P.38)。



PHONES 端子

ヘッドホンに接続します。ヘッドホンに接続しても、アウトプットの各端子からは音が出力されません。

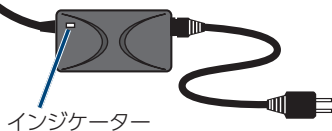


DC IN 端子

付属の AC アダプターを接続します。

※ AC アダプターは、インジケーター (図参照) のある面が上になるように設置してください。AC アダプターをコンセントに接続すると、インジケーターが点灯します。

※ AC アダプターのコードは、図のようにコード・フックに固定してください。



インジケーター

※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。

スタンドに取り付ける

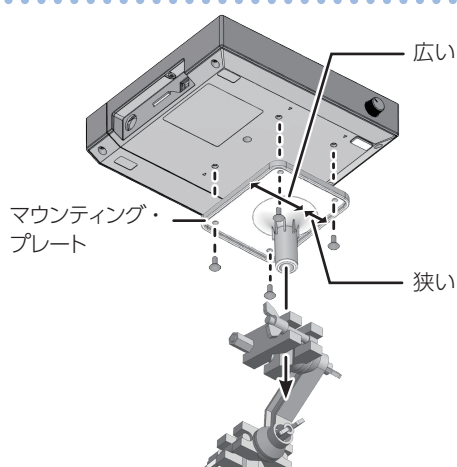
オール・パーパス・クランプ（別売：APC-33）を使うと、TM-6 PRO をハイハット・スタンドやシンバル・スタンドに取り付けることができます。

また、パッド・スタンド（別売：PDS-10）に取り付けることもできます。

※ TM-6 PRO に付属のネジ以外は使わないでください。故障の原因になります。

※ 本機を裏返すときは、破損を防ぐためボタンやつまみなどを保護してください。また、落下や転倒を引き起こさないよう取り扱いに注意してください。

オール・パーパス・クランプに取り付ける

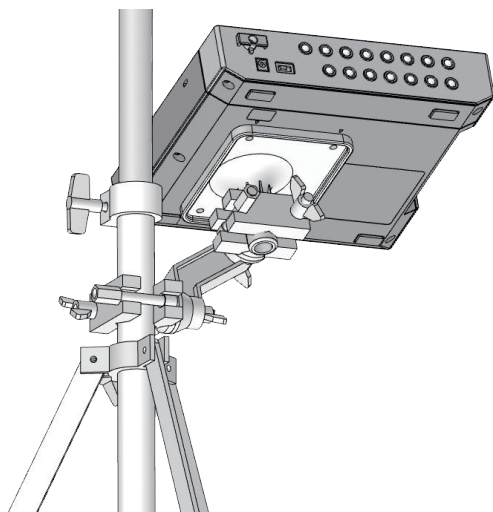


※ マウンティング・プレートは、必ず図の向きで取り付けてください。向きが合っていないとスタンドに接触し、取り付けできません。

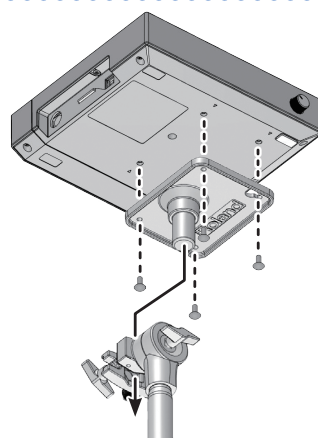
メモ

オール・パーパス・クランプの取り付け可能なパイプの直径は、10.5 ～ 28.6mm です。

スタンド取り付け例



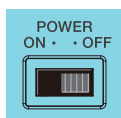
パッド・スタンドに取り付ける



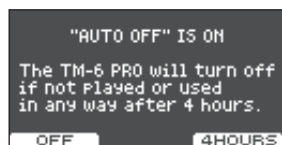
電源を入れる／切る

電源を入れる

1. 接続したアンプ内蔵スピーカーの音量を最小にします。
2. リア・パネルの [POWER] スイッチをオンにします。



電源を入れると、以下の画面が表示されます。



この画面では、Auto Off 機能を有効にする／無効にするかを設定できます。

ボタン	説明
[F1] (OFF) ボタン	電源は自動的に切れません。
[F3] (4 HOURS) ボタン	4 時間以内にドラム・トリガーを叩かなかったり何も操作をしなかったりすると、自動的に電源が切れます。

Auto Off 機能を「OFF」に設定していると、この画面は表示されません。

3. 接続したアンプ内蔵スピーカーの電源を入れ、音量を調節します。

電源を切る

1. 接続した機器の音量を最小にします。
2. 接続した機器の電源を切ります。
3. [POWER] スイッチをオフにします。

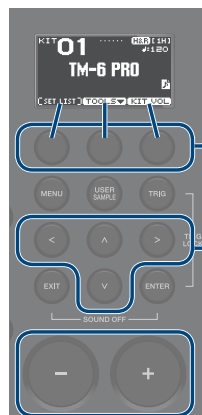
画面に「Shutting Down」と表示され、しばらくすると電源が切れます。

メモ

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (Auto Off 機能)。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください (P.44)。

※ 電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。

基本操作



機能の切り替え／設定 (ファンクション・ボタン)

ディスプレイ下部に表示されているタブを切り替えたり、機能を設定したりできます。

カーソルの移動 (カーソル・ボタン)

カーソルは、画面上の設定可能な部分を反転表示します。画面の中に設定する内容がいくつかあるときは、カーソル・ボタンを押して設定したいところにカーソルを合わせます。

メモ

ある方向のカーソル・ボタンを押しながら反対方向のカーソル・ボタンを押すと、カーソルの移動が速くなります。

値の変更 ([-] [+] ボタン)

カーソルで反転表示された値を変更するには、[-] [+] ボタンを使います。

また、[ENTER] ボタンを押しながら操作すると、値の変化が大きくなります。

メモ

[+] ボタンを押しながら [-] ボタンを押すと値が高速に大きくなり、[-] ボタンを押しながら [+] ボタンを押すと値が高速に小さくなります。

ショートカット一覧 ([ENTER] ボタン)

[ENTER] ボタンを押しながら他のボタンを押すことで、さまざまな機能の設定をすることができます。

操作	機能
[ENTER] + [-] [+]	値を大きく変化させます。
[ENTER] + [TRIG]	トリガー・ロック (P.15)
[ENTER] + [EXIT]	オール・サウンド・オフ 発音中のドラムの演奏音や ユーザー・サンプル (P.29) の 演奏音を停止します。 ※ エフェクトの残響音、ソング、ク リックは停止しません。
[ENTER] + [CLICK]	クリックのオン／オフ (P.20)
[ENTER] + [MENU]	INST 画面 (P.24) に移動
[ENTER] + サウンド・ モディファイ・ボタン	サウンド・モディファイ・ロック (P.27)

接続できるドラム・トリガー

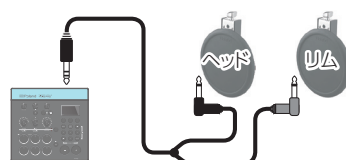
TM-6 PRO では、さまざまなドラム・トリガーに対応しています。

ドラム・トリガー	説明
RT シリーズ 	アコースティックドラムに取り付けて使用します。 アコースティック・ドラムの音に、TM-6 PRO のいろいろな音を重ねたり、音に厚みを加えたりすることができます。
KD シリーズ 	キック・パッドです。 足で演奏します。市販のキック・ペダルが必要です。
KT シリーズ 	キック・ペダルです。 足で演奏します。
BT-1 	スティックで演奏する、コンパクトなパッドです。
PD / PDX シリーズ 	パッドです。 ヘッド・ショット、リム・ショットの奏法に対応しています。
VH-10、VH-11 	ハイハット・パッドです。 オープン/クローズ、ボウ・ショット、エッジ・ショットの奏法に対応しています。市販のハイハット・スタンドが必要です。
FD シリーズ 	ハイハット・ペダルです。 CY シリーズなどのパッドと組み合わせることで、オープンからクローズまでハイハットの音色を連続的に変化させることができます。 ※ ハイハット・カテゴリーのインストのみ対応しています。
CY シリーズ 	シンバル・パッドです。 ボウ・ショット、エッジ・ショットの奏法に対応しています。

1 つの TRIGGER IN 端子に 2 つのドラム・トリガーを接続する

接続ケーブル（ステレオ標準プラグ ↔ 標準プラグ×2：別売）を使うと、1 つの TRIGGER IN 端子に 2 つのドラム・トリガーを接続できます。1 つの TRIGGER IN 端子の、ヘッド側とリム側それぞれの音色を、別々のドラム・トリガーで鳴らします。

※ この接続では、それぞれのパッドのリム部を叩いても発音しません。



1. [TRIG] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンで「BANK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
TRIGGER BANK 画面が表示されます。
3. 設定するドラム・トリガーを選びます (P.15)。
カーソル・ボタンで選ぶこともできます。
4. [-] [+] ボタンを押して、インプット・タイプとトリガー・タイプを設定します。

例) TRIGGER IN 5 端子に PD-8 を 2 つ接続するときは、以下のように設定します。



トリガー・タイプ トリガー・タイプ
(ヘッド側) : PD8 (リム側) : PD8

インプット・タイプ : PDX2

※ 1 つの TRIGGER IN 端子に 2 つのドラム・トリガーを接続した場合、トリガー・タイプ「BT1」は正常に動作しません。BT-1 を使う場合は、タイプ「BT1 SENS」を選んでください。

5. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

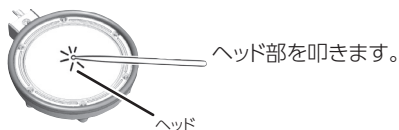
奏法について

TM-6 PRO に接続できるドラム・トリガーでは、さまざまな演奏／奏法に対応しています。

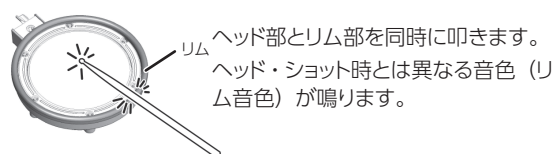
パッド (PD / PDX シリーズ)

奏法	説明
----	----

ヘッド・ショット



リム・ショット



ハイハット (VH-10、VH-11)

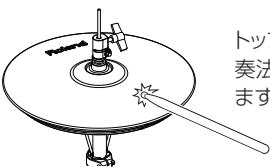
奏法	説明
----	----

オープン／クローズ



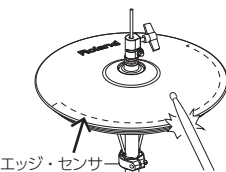
ハイハット・スタンドのペダルの踏み込み具合により、オープンからクローズまでハイハットの音色が連続的に変化します。
フット・クローズ (ペダルを踏み込んで鳴らす) やフット・スプラッシュ (ペダルを踏み込んで瞬時にオープンして鳴らす) も可能です。
※ ハイハット・カテゴリーのインストのみ対応しています。

ボウ・ショット



トップ・ハイハットの打面を叩く奏法です。ヘッド側の音色が鳴ります。

エッジ・ショット



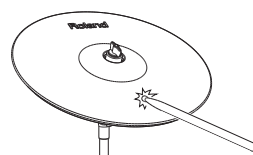
トップ・ハイハットのエッジ (端) をスティックのショルダー部で叩く奏法です。図のエッジ・センサーの位置が叩かれたときに、リム側の音色が鳴ります。
※ エッジを真横から叩いても正しく鳴りません。図のように叩いてください。

※ トップ・ハイハットの裏側やボトム・ハイハットは叩かないでください。故障の原因になります。

シンバル (CY シリーズ)

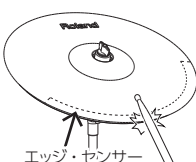
奏法	説明
----	----

ボウ・ショット



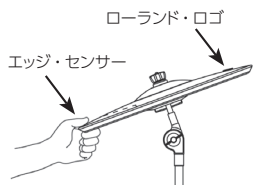
シンバルの打面を叩く最も一般的な奏法です。ヘッド側の音色に対応します。

エッジ・ショット



エッジ (シンバルの端) をスティックのショルダー部で叩く奏法です。図のエッジ・センサーの位置が叩かれたときに、リム側の音色が鳴ります。

チョーク奏法



シンバルを叩いたあと、エッジ・センサーを手でチョークする (つかむ) と、音が止まります。チョーク状態で叩くと、音が短くなります。

※ CY-15R、CY-13R のスリー・ウェイ・トリガーには対応していません。

アコースティック・ドラム・トリガー (RT シリーズ)

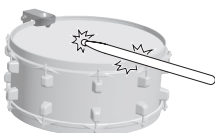
奏法	説明
----	----

ヘッド・ショット



ヘッド部を叩きます。

リム・ショット *1



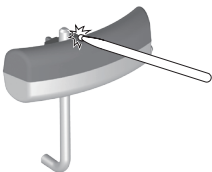
ヘッド部とリム部を同時に叩きます。ヘッド・ショット時とは異なる音色 (リム音色) が鳴ります。



キック・ペダルを踏みます。

*1: デュアル・トリガーのアコースティック・ドラム・トリガーのみ対応しています。

バー・トリガー・パッド (BT-1)

奏法	説明
	打面を叩きます。

接続できるフットスイッチ

フットスイッチを使って、キットやセット・リストの切り替えなどができます。
以下のフットスイッチ（別売）に対応しています。

フットスイッチ	説明
FS-5U 	1 個、または 2 個接続できます。 接続ケーブル（別売：ステレオ標準プラグ ↔ 標準プラグ× 2）を使用すると、FS-5U を 2 個接続できます。
FS-6 	2 つのフットスイッチが一体化されています。

参照

詳しくは「フットスイッチやドラム・トリガーに機能を割り当てる」(P.43) をご覧ください。

トリガーの設定をする (TRIG)

トリガー設定の基本操作

ドラム・トリガーからの信号を TM-6 PRO が確実に受け取れるように、トリガーの設定をします。

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

1. [TRIG] ボタンを押します。

TRIGGER SETUP 画面が表示されます。



2. カーソル・ボタンで設定したいメニューを選び、[ENTER] ボタンを押します。

メニュー	説明
BANK	各ドラム・トリガーの種類を設定します。その設定をひとまとめにして、トリガー・バンクに記憶させることができます。
PARAM	ドラム・トリガーの最低感度 (Threshold) などを設定します (P.16)。
HI-HAT	ハイハットの設定をします (P.17)。
XTALK	他のドラム・トリガーの振動による誤発音を防ぐ設定をします (クロストーク・キャンセル) (P.18)。
MONITOR	各ドラム・トリガーのトリガー反応や履歴を確認します (P.19)。
LOCK	トリガー・ロックの設定をします (P.15)。

3. 選んだメニューに応じて、設定を変更します。

4. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

ドラム・トリガーの種類を設定する

トリガー・バンクで使用するドラム・トリガーの種類 (トリガー・タイプ) を、トリガー・インプットごとに指定します。

1. [TRIG] ボタンを押します。

2. カーソル・ボタンで「BANK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

TRIGGER BANK 画面が表示されます。

トリガー・バンク番号、名前



トリガー・タイプ (ヘッド側) トリガー・タイプ (リム側)

トリガー・インプット番号、インプット・タイプ

H&R	1 つの TRIGGER IN 端子に、1 つのドラム・トリガーを接続するとき (通常の設定) ヘッドとリムで共通のトリガー・タイプが使用されます。また、リム側のトリガー・タイプの表示が「」になります。
PADx2	1 つの TRIGGER IN 端子に、2 つのドラム・トリガーを接続するとき (P.11) ヘッド側とリム側で、それぞれトリガー・タイプを設定します。

ボタン	説明
[F2] (THRESHOLD) ボタン	ドラム・トリガーの最低感度を調節する画面に移動します。(P.16)。
[F3] (NAME) ボタン	トリガー・バンクの名前を変更します。

トリガー・タイプ

トリガー・タイプは、さまざまなトリガーのパラメーターを、各ドラム・トリガーに適した値に調整し、ひとまとめにしたものです。各トリガー・インプットで使っているドラム・トリガーに最適な設定をするために、接続しているドラム・トリガーの型番 (トリガー・タイプ) を指定します。

- ※ トリガー・タイプを変更すると、Threshold や Sensitivity などの関連するパラメーター (クロストーク・キャンセルを除く) はタイプに応じた値に変更されます。
- ※ 「BT-1 SENS」は、BT-1 使用時に、より弱打の感度を向上させることができるトリガー・タイプです。周囲からの振動などで誤発音しやすくなりますので、フレーズの再生などには「BT-1」を選んでください。ただし、1 つの TRIGGER IN 端子に 2 つのドラム・トリガーを接続した場合は、「BT1 SENS」を選んでください。「BT-1」では正常に動作しません。
- ※ 「PAD1」、「PAD2」、「PAD3」は、一般的なパッド用です。

トリガー・バンク

トリガー・バンクは 6 つのトリガー・インプットの設定を 1 つにまとめたものです。トリガー・バンクは 8 個作成できます。

- トリガー・バンク番号にカーソルを合わせ、[-] [+] ボタンでトリガー・バンクを選びます。
- 設定するドラム・トリガーを選びます (P.15)。
カーソル・ボタンで選ぶこともできます。
- [-] [+] ボタンを押して、トリガー・タイプを設定します。
- [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

設定するドラム・トリガーを選ぶ

ドラム・トリガーを叩いて選ぶ

各ドラム・トリガーの設定をするときは、設定するドラム・トリガーを叩いて選びます。

ドラム・トリガーのリム側を選ぶときは、リムを叩きます。

トリガー・ボタンでドラム・トリガーを選ぶ

トリガー・ボタンを使って、設定するドラム・トリガー (トリガー・インプット番号) を選ぶこともできます。[RIM] ボタンを押して点灯させると、リム側のドラム・トリガーが選ばれます。

リム側を選んでいるときは、[RIM] ボタンが点灯します。

設定するドラム・トリガーが切り替わらないようにする (Trig Lock)

ドラム・トリガーを叩いても、設定するドラム・トリガーが切り替わらないようにすることができます。フレーズを演奏しながら設定するときに便利です (トリガー・ロック)。

- TRIGGER SETUP 画面 (P.14) で [LOCK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
- [-] [+] ボタンを押して、[LOCK] に設定します。



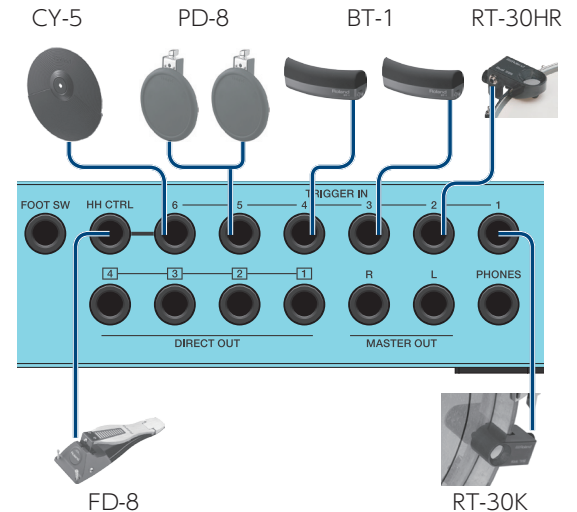
トリガー・ロック中は、現在選ばれているトリガー・インプット番号が点滅します。また、トリガー・ボタンを押して、設定するドラム・トリガーを変更することができます。

- [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

メモ

[ENTER] ボタンを押しながら [TRIG] ボタンを押して、トリガー・ロックをオンにすることもできます。

ドラム・トリガーの接続／設定例



TRIGGER BANK 画面 (P.14)

TRIGGER BANK [1H]			
No.1 USER BANK EDIT			
1	H&R	RT30K	HEAD
2	H&R	RT30HR	HEAD
3	H&R	BT1	HEAD
4	H&R	BT1	HEAD
5	PADx2	PDB	RIM
6	H&R	CY5	HEAD
THRESHOLD NAME			

接続端子	インプット		トリガー・タイプ
	番号	タイプ	
TRIGGER IN 1	1	H&R	RT30K
TRIGGER IN 2	2	H&R	RT30HR
TRIGGER IN 3	3	H&R	BT1
TRIGGER IN 4	4	H&R	BT1
TRIGGER IN 5 (*1)	5	PADx2	PD8 (ヘッド側)、 PD8 (リム側)
TRIGGER IN 6	6	H&R	CY5
HH CTRL (*2)	-	-	-

*1: 上記の接続／設定例では、TRIGGER IN 5 端子のインプット・タイプを [PADx2] に設定し、1 つの TRIGGER IN 端子に 2 つのドラム・トリガーを接続しています。その場合、TRIGGER IN 5 端子には、接続ケーブル (ステレオ標準プラグ ⇄ 標準プラグ×2:別売) を使って接続します。

*2: ハイハット・カテゴリーのインストのみ対応しています。

トリガーの設定をする (TRIG)

ドラム・トリガーの最低感度 (Threshold) を調節する

ある一定以上の強さで叩いたときだけ、トリガー信号を読むように設定します。

周囲の影響による誤発音を防ぐ

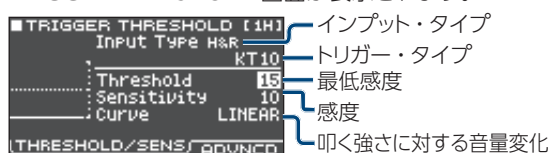
アコースティック・ドラムの生音やモニター・スピーカーからの音の影響で、ドラム・トリガーが発音してしまうことがあります。ドラム・トリガーの Threshold の値を大きくするか、次の点に注意してセッティングしてください。

- ドラム・トリガーをスピーカーから離して設置する
- ドラム・トリガーに角度をつけて、音の影響を受けにくい場所にセッティングする

TM-6 PRO は、ステージでの使用を想定しているため、ドラム・トリガーの Threshold の初期値は高めに設定されています。弱打による表現を優先する場合は、誤発音しない範囲で Threshold を下げて使用してください。

1. TRIGGER SETUP 画面 (P.14) で「PARAM」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
2. [F1] または [F2] (THRESHOLD/SENS) ボタンを押します。

TRIGGER THRESHOLD 画面が表示されます。



3. 設定するドラム・トリガーを選びます (P.15)。
4. カーソル・ボタンで「Threshold」を選び、[-] [+] ボタンで感度を調節します。

パラメーター 説明

Threshold	ドラム・トリガーが周囲の振動で誤発音する場合に、値を大きくします。値をあまり大きくすると、弱く叩いたときに音が鳴らなくなるので、誤発音しない範囲でなるべく小さな値にします。 下の図で、B は発音しますが、A、C は発音しません。 スレッシュホールド 
-----------	---

5. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

ドラム・トリガーの感度 (Sensitivity) を調節する

ドラム・トリガーの感度を調節し、叩く強さと音の大きさのバランスを調節します。

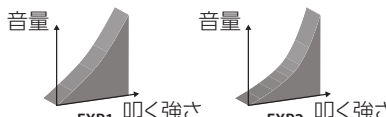
1. TRIGGER SETUP 画面 (P.14) で「PARAM」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
2. [F1] または [F2] (THRESHOLD/SENS) ボタンを押します。
3. 設定するドラム・トリガーを選びます (P.15)。
4. カーソル・ボタンで「Sensitivity」を選び、[-] [+] ボタンで感度を調節します。
5. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

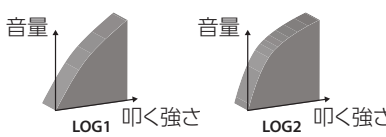
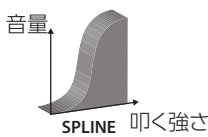
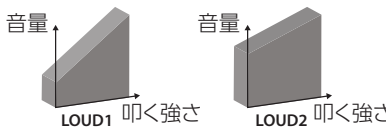
ドラム・トリガーの叩く強さに対する音量変化を設定する

ドラム・トリガーを叩く強さに対する音量変化を設定します。

1. TRIGGER SETUP 画面 (P.14) で「PARAM」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
2. [F1] または [F2] (THRESHOLD/SENS) ボタンを押します。
3. 設定するドラム・トリガーを選びます (P.15)。
4. カーソル・ボタンで「Curve」を選び、[-] [+] ボタンで設定します。

パラメーター 説明

LINEAR	標準的な設定です。叩く強さと音量の変化が最も自然になります。 
EXP1、EXP2	「LINEAR」に比べ、強めに叩くときの音量変化が大きくなります。 

パラメーター	説明
LOG1、LOG2	「LINEAR」に比べ、弱めに叩くときの音量変化が大きくなります。 
SPLINE	叩く強さによる音量変化が極端につきません。 
LOUD1、LOUD2	叩く強さによる音量変化が少なく、演奏しやすい音量が保てます。RT シリーズを使用するときなど、安定した発音が得られます。 

5. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

トリガーを細かく設定する

ドラム・トリガーの感度の詳細設定、信号の検出など、より細かい調節をするときにだけ、設定してください。

通常設定する必要はありません。

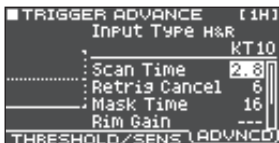
参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

1. TRIGGER SETUP 画面 (P.14) で「PARAM」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

2. [F3] (ADVNC) ボタンを押します。

TRIGGER ADVANCE 画面が表示されます。



3. 設定するドラム・トリガーを選びます (P.15)。
4. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンで値を変更します。
5. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

ハイハットの設定をする

V ハイハット VH-10 または VH-11 (以下、「VH」と呼びます) を使うときは、TM-6 PRO でオフセットの調整をしてください。

オープン、クローズやペダルの動きを正しく検出するために必要です。

あらかじめ、トリガー・タイプを「VH-10」または「VH-11」に設定しておく必要があります (P.14)。

1. ハイハットがモーション・センサー・ユニットから完全に離れた状態で、TM-6 PRO の電源を入れます。
2. VH のクラッチ・スクリューをゆるめ、ハイハットをモーション・センサー・ユニットの上に自然に置いた状態にします。
3. TRIGGER SETUP 画面 (P.14) で「HI-HAT」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
4. TM-6 PRO の画面に表示されるメーターを見ながら、VH のオフセット調整ネジを回して調整します。

メーターに  が表示されるように調整します。



5. 必要に応じて、カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Foot Splash Sens	-10 ~ +10	フット・スプラッシュの鳴りやすさ
CC Max	90、127	ハイハット・ペダルを完全に踏み込んだ状態で送信されるコントロール・チェンジの値 ※ TM-6 PRO とドラム・トリガーだけで演奏するときは、設定を変更する必要はありません。

6. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

他のドラム・トリガーの振動による誤発音を防ぐ(クロストーク・キャンセル)

同じスタンドに 2 つのドラム・トリガーを取り付けている場合に、一方のドラム・トリガーを叩いたときの振動で、もう一方のドラム・トリガーの音が発音してしまうことがあります。この現象を「クロストーク」といいます。クロストーク・キャンセルは、このようなクロストークを防ぐための設定です。

※ アコースティック・ドラムの生音やモニター・スピーカーからの音の影響で、ドラム・トリガーが発音してしまうことがあります。この場合、クロストーク・キャンセルを設定しても解決できません。以下に注意してセッティングしてください。

- ドラム・トリガーをスピーカーから離して設置する
- ドラム・トリガーに角度をつけて、音の影響を受けにくい場所にセッティングする
- ドラム・トリガーの Threshold の値を大きくする (P.16)

ドラム・トリガーのセッティングのポイント

外部からの振動が伝わりにくくなるようにドラム・トリガーをセッティングすることで、クロストークを最小限に防ぐことができます。

クロストーク・キャンセルの設定をする前に、以下に注意してセッティングしてください。

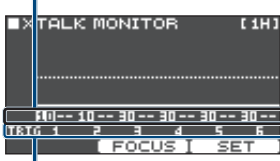
- ドラム・トリガー同士がぶつからないようにセッティングしてください。
- 複数のドラム・トリガーを同じスタンドに取り付ける場合、距離を離してセッティングしてください。
- ドラム・トリガーの取り付けノブをしっかりと締め付けて、スタンドに取り付けてください。

例) トリガー・インプット 1 のドラム・トリガーを叩いたときに、トリガー・インプット 2 の音が鳴ってしまう

1. TRIGGER SETUP 画面 (P.14) で「XTALK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

XTALK MONITOR 画面が表示されます。

クロストーク・キャンセルの値



トリガー・インプット番号

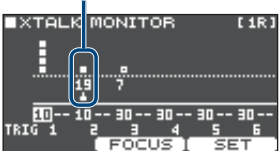
2. トリガー・インプット 1 のドラム・トリガーを叩きます。

XTALK MONITOR 画面に、クロストークの検出状況が表示されます。

下の図では、トリガー・インプット 1 のドラム・トリガー (TRIG 1) を叩いたときに、トリガー・インプット 2 (TRIG 2) とトリガー・インプット 3 (TRIG 3) のドラム・トリガーが振動を検出したことを示しています。

クロストークしているドラム・トリガーには、「▲」が表示されます。

クロストークしている



振動を検出したドラム・トリガー	説明
トリガー・インプット 2 (TRIG 2)	クロストークしています。クロストーク・キャンセルの値を調整することで、発音しないようにすることができます。
トリガー・インプット 3 (TRIG 3)	クロストーク・キャンセルが効いているため、発音しません。

3. [F2] (FOCUS) ボタンを押して、TRIG 2 にカーソルを合わせます。



複数のドラム・トリガーがクロストークしている場合は、[F2] (FOCUS) ボタンを押すたびに、クロストークしている別のドラム・トリガーにカーソルが移動します。

4. [F3] (SET) ボタンを押します。

この例では、トリガー・インプット 2 の発音をキャンセルできる最小値「19」が自動設定されます。

設定値	説明
0 ~ 80	クロストーク・キャンセル処理の強さ

クロストーク・キャンセルを自動設定する場合、40 以上の値にはなりません。40 以上に設定する必要があるときは、[-] [+] ボタンで値を変更してください。

5. 手順 3、4 を繰り返して、クロストーク・キャンセルの設定をします。

メモ

カーソル・ボタンと [-] [+] ボタンを使って、手動でクロストーク・キャンセルの値を設定することもできます。

6. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

各ドラム・トリガーのトリガー情報を見る

各ドラム・トリガーの叩く強さ（ベロシティー）や、ハイハットの開き具合をリアルタイムに表示することができます。

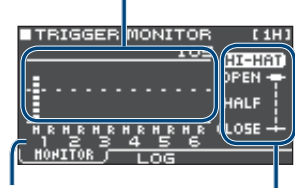
1. TRIGGER SETUP 画面 (P.14) で [MONITOR] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

2. [F1] (MONITOR) ボタンを押します。

TRIGGER MONITOR 画面が表示されます。

ベロシティー・メーター

トリガーごとに叩いた強さ（ベロシティー）を表示します



トリガー・インプット番号 ハイハットの開き具合

3. ドラム・トリガーを叩きます。

画面のメーター表示がリアルタイムに変化し、以下の情報を確認することができます。

[F1] (MONITOR) ボタン	
表示	説明
ベロシティー・メーター	叩いた強さ（ベロシティー）を表示します。
HI-HAT	ハイハットの開き具合を表示します。「OPEN」に近いほど大きく開いた状態、「CLOSE」に近いほど閉じた状態です。

[F2] (LOG) ボタン	
	
叩かれたトリガーのベロシティーを、順番に表示します	
表示	説明
ベロシティー・メーター	ベロシティーの記録が表示されます。
[F3] (CLEAR) ボタン	ベロシティーの記録を消去します。

4. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

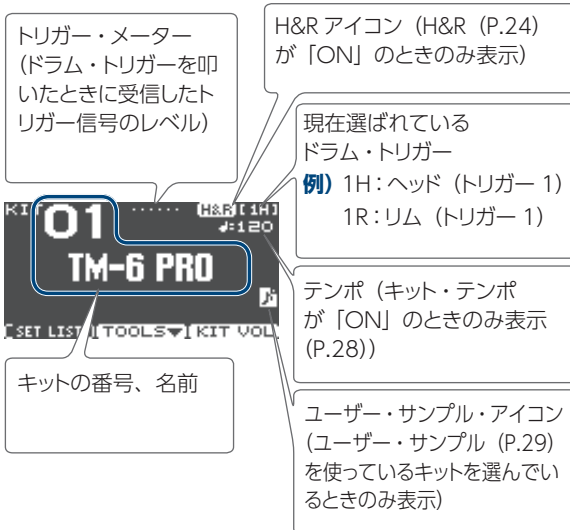
演奏する

キットを選ぶ

1. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面を表示させます。
2. [-] [+] ボタンを押して、キットを選びます。

KIT 画面について

この画面は、電源を入ると表示される、TM-6 PRO の基本となる画面です。



[F1] (SET LIST) ボタン

[F1] (SET LIST) ボタンを押すと、セット・リストに登録した順序で、キットを呼び出すことができます。もう一度 [F1] (SET LIST) ボタンを押すと、KIT 画面に戻ることができます。詳しくは「キットを順番に呼び出す (SET LIST) (P.34) をご覧ください。

[F2] (TOOLS) ボタン

キットに関する以下の機能呼び出します。詳しくは「便利な機能」(P.33) をご覧ください。

Undo	キットやインストの変更を、キット選択直後の状態まで戻すことができます。
Copy	キットやドラム・トリガーの設定をコピーすることができます。
SET LIST Edit	セット・リストの編集ができます。
1KIT Save	キット単体の設定を、SD カードにバックアップできます。
1KIT Load	SD カードに保存した 1 キット・バックアップ・データをロードします。

[F3] (KIT VOL) ボタン

キットやハイハットの音量を、レベル・メーターを確認しながら調節します (P.27)。

クリックを鳴らす

クリックをオン／オフする

1. [CLICK] ボタンを押します。

CLICK 画面が表示されます。



2. [F3] (CLICK) ボタンを押します。

クリックが鳴ります。

[CLICK] つまみでクリックの音量を調節できます。

3. もう一度、[F3] (CLICK) ボタンを押します。

クリックが止まります。

メモ

- [ENTER] ボタンを押しながら [CLICK] ボタンを押しても、クリックをオン／オフすることができます。
- クリックはヘッドホンだけに出力されますが (初期設定)、出力先を自由に設定することもできます。詳しくは「音の出力先を設定する」(P.38) をご覧ください。

テンポを変更する

1. CLICK 画面 (TEMPO タブ) で [-] [+] ボタンを押して、テンポを変更します。

メモ

- ドラム・トリガーを叩く、またはトリガー・ボタンを押す間隔で、テンポを設定 (タップ入力) することができます (SETUP タブ → Tap Sw、Tap Pad)。
- Sync Mode (→ PDF) が [EXTERNAL] に設定されていると、テンポは [USB] と表示されます。このとき、テンポを変更することはできません。

拍子の設定を変更する

1. CLICK 画面 (SETUP タブ) を表示させます。
2. カーソル・ボタンで [Beat] を選び、[-] [+] ボタンで拍子の設定を変更します。

メモ

その他の設定については、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

曲に合わせて演奏する

SD カードに入れた、バックিং・トラックなどのオーディオ・ファイル (WAV / MP3) を再生することができます。ソングに合わせて演奏してみましょう。

1. SD カードを TM-6 PRO に挿入します (P.7)。

2. [SONG] ボタンを押します。

SONG 画面が表示されます。

ループ・アイコン (ループ再生時 (P.22))

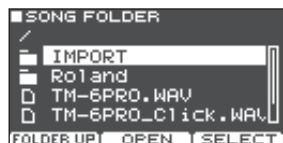
メトロノーム・アイコン (クリック・トラック (P.22) のある曲を選んでいるときに表示)

ソング名



3. [F3] (FOLDER) ボタンを押します。

SONG FOLDER 画面が表示されます。



4. オーディオ・ファイルを選び、[F3] (SELECT) ボタンまたは [ENTER] ボタンを押します。

ボタン	機能
[A] [V] ボタン	カーソルの移動
[F1] (FOLDER UP) ボタン / [<] ボタン	フォルダーを抜ける
[F2] (OPEN) ボタン / [>] ボタン	フォルダーに入る
[F3] (SELECT) ボタン / [ENTER] ボタン	ファイルの決定

5. [▶/■] ボタンを押します。

選んだソングが再生されます。

再生中の操作

操作子	機能
[▶/■] ボタン	ソングの再生/停止
[A] ボタン	曲の先頭に移動
[V] ボタン	曲の末尾に移動
[<] ボタン	5 秒早戻し
[>] ボタン	5 秒早送り
[F1] (◀◀) ボタン	前の曲に移動 (ボタン長押し: ソングの早戻し)
[F2] (▶▶) ボタン	次の曲に移動 (ボタン長押し: ソングの早送り)
[-] [+] ボタン	前の曲/次の曲に移動
[SONG] つまみ	ソング (オーディオ・ファイル) の音量調節
[CLICK] つまみ (*1)	クリック・トラック (P.22) の音量調節
[ENTER] ボタン	ソングやクリック・トラックの音量、ソングを繰り返して再生 (ループ再生) するなど、ソング再生に関する設定をします (P.22)。

*1: SD カードのオーディオ・ファイルをクリック・トラックとして出力することで、ソングに合わせてクリックを鳴らすことができます (P.22)。

パソコンからSDカードにオーディオ・ファイルを保存するときは

SD カードのルート (一番上の階層) だけでなく、フォルダー内に保存されたオーディオ・ファイルも再生することができます。

※ 1 つのフォルダーに保存するファイルは 200 個以内にしてください。

※ ソングの長さは、1 ファイルが 1 時間以内にしてください。

参照

詳しくは「SD カードのフォルダー構成」(P.36) をご覧ください。

TM-6 PRO で再生できるオーディオ・ファイル

	WAV ファイル	MP3 ファイル
形式 (拡張子)	WAV (.wav)	MP3 (.mp3)
サンプリング 周波数	44.1kHz	44.1kHz
ビット数	16、24 ビット	64kbps ~ 320kbps

※ 15 文字以上のファイル名やフォルダー名は、正しく表示されません。また、2 バイト文字を使ったファイルやフォルダーには対応していません。

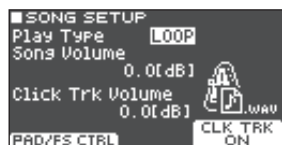
ソングごとの設定を変更する

ソングやクリック・トラックの音量や、再生のしかたを設定できます。

1. ソングを選びます (P.21)。

2. [ENTER] ボタンを押します。

SONG SETUP 画面が表示されます。



3. カーソル・ボタン / [-] [+] ボタン / ファンクション・ボタンでソングの設定します。

パラメーター	設定値	説明
Play Type	ONE SHOT	1 度だけ再生して、停止します。
	LOOP	繰り返し再生します。
Song Volume		ソングの音量
Click Trk Volume	-INF ~ +6.0 [dB]	クリック・トラックの音量 ※ ソングに対応するクリック・トラックがある場合のみ
ボタン		説明
[F1] (PAD/FS CTRL) ボタン		フットスイッチやドラム・トリガーに、ソングの再生/停止などの機能を割り当てることができます (P.43)。
[F3] (CLK TRK ON) ボタン		クリック・トラックの再生をオン/オフします。 ※ ソングに対応するクリック・トラックがある場合のみ

4. [EXIT] ボタンを押して、SONG 画面に戻ります。

オーディオ・ファイルをクリックとして再生する (クリック・トラック)

クリック用に、ソングとは別のオーディオ・ファイル (WAV ファイル) を用意することで、クリックとして再生することができます (クリック・トラック)。

クリック・トラックは、ソングと同時に再生することができるため、ソングに合わせた好みのクリック音を再生したいときに便利です。

※ クリック・トラックを再生するには、必ず WAV ファイル形式のソングとクリック音の入ったオーディオ・ファイルを用意してください。MP3 ファイルには対応していません。

メモ

内蔵デモ・ソングには、クリック・トラックが用意されています。

クリック・トラックのオーディオ・ファイルを準備する

1. ソングとして再生するオーディオ・ファイル (WAV ファイル) と、クリック・トラックとして再生するオーディオ・ファイル (WAV ファイル) を用意します。

クリック・トラックは、市販の DAW ソフトウェアなどで、ソングのテンポに合わせて作成します。

2. パソコンで、手順 1 で用意したファイルのファイル名を編集します。

クリック・トラックとして再生するオーディオ・ファイルのファイル名を、「ソングのファイル名 + **_Click**」にします。

例 「TM-6PRO.wav」というオーディオ・ファイルに合わせてクリック・トラックを再生するときは、クリック・トラックとして再生するオーディオ・ファイルのファイル名を「TM-6PRO_Click.wav」にします。

3. ソングのオーディオ・ファイルと、クリック・トラックのオーディオ・ファイルを、SD カードの同じ階層に保存します。

例) の場合では、「TM-6PRO.wav」と「TM-6PRO_Click.wav」を SD カードの同じ階層に保存します。

ソングに合わせてクリック・トラックを再生する

1. SONG 画面 (P.21) で、クリック・トラックと一緒に再生するソングを選びます。

例) の場合では、ソングに「TM-6PRO.wav」を選びます。



2. [▶/■] ボタンを押します。

ソングの再生と同時に、クリック・トラックも再生されます。

クリック・トラックの音量を調節するときは、[CLICK] つまみを回します。

例) の場合では、[SONG] つまみで「TM-6PRO.wav」、[CLICK] つまみで「TM-6PRO_Click.wav」の音量を調節できます。

メモ

クリック・トラックはヘッドホンだけに出力されますが (初期設定)、出力先を自由に設定することもできます。詳しくは「音の出力先を設定する」(P.38) をご覧ください。

内蔵デモ・ソングを再生する

TM-6 PRO には、デモ・ソングが内蔵されています。

内蔵デモ・ソングには、クリック・トラックも用意されています。

※ TM-6 PRO に SD カードが挿入されていると、内蔵デモ・ソングは再生できません。

1. SD カード・スロットから SD カードを抜きます (P.7)。

2. [SONG] ボタンを押します。

SONG 画面が表示されます。

3. [-] [+] ボタンを押して、デモ・ソングを選びます。

4. [▶/■] ボタンを押します。

選んだデモ・ソングが再生されます。

編集する

設定の保存

TM-6 PRO では、変更した値は自動的に保存されるため、設定を保存する操作は必要ありません。

また、電源をオフにするときも設定が保存されます。

インストを選ぶ／エディットする

ドラム・トリガーで鳴らすインストを選びます。

1. [MENU] ボタンを押します。

MENU 画面が表示されます。

2. カーソル・ボタンで「INST」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

INST 画面が表示されます。

3. 設定するドラム・トリガーを選びます (P.15)。

4. カーソル・ボタン／[-] [+] ボタン／ファンクション・ボタンでインストを設定します。

インスト A

カテゴリー名



インスト番号

インスト名

インスト B のカテゴリー、名前、番号

プレイ・タイプ・アイコン (P.31)

ボタン	説明
[F1] (H&R) ボタン	「ON」：ヘッド部とリム部などのインストを、セットで選びます。選んだインストに応じて、推奨のインストがセットで選ばれます。 「OFF」：ヘッド部やリム部など、叩き分ける場所ごとにインストを設定することができます。
[F2] (B ON/OFF) ボタン	「ON」にすると、通常のインスト A に加え、インスト B を鳴らすことができます。2 つのインストを重ねて鳴らしたり、叩く強さに応じて切り替えたりできます。
[F3] (EDIT) ボタン	インストの細かい設定をします。インスト・パラメーターは、インスト A と B それぞれ設定することができます。

メモ

- [ENTER] ボタンを押しながら [MENU] ボタンを押して、INST 画面に移動することもできます。
- パソコンで作成したオーディオ・ファイルを、SD カードから TM-6 PRO に取り込み、インストとして鳴らすことができます (P.29)。

5. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

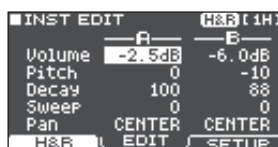
インストの細かい設定をする

INST 画面で [F3] (EDIT) ボタンを押すと、インスト A と B それぞれの、音量や鳴らしかたなどを設定することができます。

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

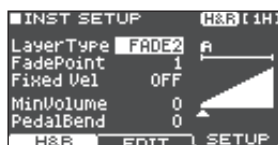
INST EDIT 画面



メモ

- サウンド・モディファイつまみで、Volume、Pitch、Decay を調節することができます (P.26)。サウンド・モディファイつまみでは、インスト A と B の両方のパラメーターを同時に変更します。
- INST EDIT 画面で、[ENTER] ボタンを押しながらサウンド・モディファイつまみを回すと、インスト A と B を個別に調節することができます (現在カーソルで選んでいるレイヤーの、Volume、Pitch、Decay)。このとき、サウンド・モディファイ・インジケーターが点滅します。

INST SETUP 画面



メモ

- 叩く強さによって、インスト A と B を重ねて鳴らしたり、切り替えて鳴らしたりすることができます (LayerType)。
- Fixed Velocity の用途
叩く強さにかかわらず、一定のペロシティーで鳴らすことができます。ユーザー・サンプルに割り当てたフレーズを一定の音量で鳴らすときにも便利です。
- Minimum Volume の用途
強打時の音量を保ったまま、弱打時の音量を大きくすることができます。スネアのゴースト・ノートやライド・シンバルのレガート音を、より聴こえやすくすることができます。

ドラム・トリガーごとにエフェクトをかける (パッド・エフェクト)

ドラム・トリガーごとに、以下のエフェクトをかけることができます。

エフェクト	説明
PAD EQ	ヘッド、リムごとの 3 バンド・イコライザー
PAD TRANSIENT	アタックとリリースのレベル・コントロール
PAD COMP	シングル・バンド・コンプレッサー
PAD MFX	マルチ・エフェクト

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

1. [MENU] ボタンを押します。

MENU 画面が表示されます。

2. カーソル・ボタンで「PAD-FX」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

PAD EFFECT 画面が表示されます。



3. カーソル・ボタンで設定したいパッド・エフェクトを選び、[ENTER] ボタンを押します。

パッド・エフェクトの設定画面が表示されます。

4. エフェクトの設定を変更します。

5. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

例) PAD EQ を設定する

1. PAD EFFECT 画面 (P.25) で「EQ」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

PAD EQ 画面が表示されます。



2. 設定するドラム・トリガーを選びます (P.15)。

3. [F3] (EQ ON/OFF) ボタンを押して、オン／オフを切り替えます。

4. カーソル・ボタンと [-] [+] ボタンで、設定を変更します。

LOW (低域)、MID (中域)、HIGH (高域) をそれぞれ調節します。

パラメーター	説明
Q (MID のみ)	周波数帯の幅 値を大きくするほど幅が狭くなります。
Freq	基準周波数
Gain	増幅／減衰量
[F1] (H&R) ボタン	ヘッド部とリム部をセットで変更するか、別々に変更するかを設定します (P.24)。

5. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

キット全体にエフェクトをかける (キット・エフェクト)

キット全体に、以下のエフェクトをかけることができます。

エフェクト	説明
REVERB	リバーブ
MASTER COMP	マスター・コンプレッサー
MASTER EQ	マスター・イコライザー

※ DIRECT OUT 端子から出力する音には、マスター・コンプレッサー／マスター・イコライザーの効果はかかりません。

※ Output Assign (P.38) で Master Out を「DIRECT」に設定していると、MASTER OUT 端子から出力する音には、マスター・コンプレッサー／マスター・イコライザーの効果はかかりません。

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

マスター・コンプレッサーの用途

- 瞬間的な音のピークを圧縮することで、ドラム全体の音圧を上げることができます。その結果、音を前面に出すことや、他の楽器音に埋もれにくい音にすることができます (コンプレッサー)。
- 録音機器への過大入力を抑えつつ、録音レベルを大きくすることができます (コンプレッサー／リミッター)。
- 小型のモニター・アンプを使う場合に、ドラム音のピークを整え、音を歪みにくくします (リミッター)。

マスター・イコライザーの用途

- 4 バンド (LOW / MID1 / MID2 / HIGH) のブースト／カットによる音質補正ができます。
- マスター・コンプレッサーを使用したときの音質を補正するためにも使用できます。

1. [MENU] ボタンを押します。

MENU 画面が表示されます。

2. カーソル・ボタンで [KIT-FX] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

KIT EFFECT 画面が表示されます。



3. カーソル・ボタンで設定したいキット・エフェクトを選び、[ENTER] ボタンを押します。

キット・エフェクトの設定画面が表示されます。

4. エフェクトの設定を変更します。

5. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

例) MASTER EQ を設定する

1. KIT EFFECT 画面 (P.25) で [MASTER EQ] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

MASTER EQ 画面が表示されます。



2. [F3] (EQ ON/OFF) ボタンを押して、オン／オフを切り替えます。

3. カーソル・ボタンと [-] [+] ボタンで、設定を変更します。

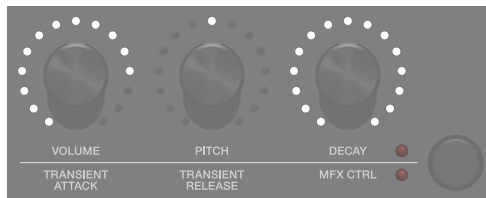
LOW (低域)、MID1 (中域)、MID2 (中域)、HIGH (高域) をそれぞれ調節します。

パラメーター	説明
TYPE (LOW、HIGH のみ)	イコライザーのかかりかた
Q	周波数帯の幅 値を大きくするほど幅が狭くなります。
FREQ	基準周波数
GAIN	増幅／減衰量

4. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

サウンド・モディファイつまみで設定する

サウンド・モディファイつまみを使って、インストやパッド・エフェクトのパラメーターを設定することができます。



1. 設定するドラム・トリガーを選びます (P.15)。

2. サウンド・モディファイ・ボタンを押して、設定するパラメーターを選びます。

インスト・パラメーター (上側インジケーター点灯)

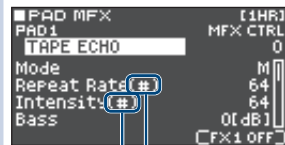
パラメーター	説明
Volume	インストの音量
Pitch	インストのピッチ
Decay	インストの余韻の長さ

メモ

- サウンド・モディファイつまみでは、インスト A と B の両方のパラメーターを同時に変更します。
- INST EDIT 画面 (P.24) で、[ENTER] ボタンを押しながらサウンド・モディファイつまみを回すと、インスト A とインスト B を個別に調節することができます。

パッド・エフェクト・パラメーター (下側インジケーター点灯)

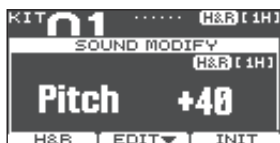
パラメーター	説明
Transient Attack	アタックの調節 アタック部分を強調したり、抑えたりできます。
Transient Release	リリースの調節 リリース部分を強調したり、抑えたりできます。
MFX Control	マルチ・エフェクトのコントロール 選んでいるマルチ・エフェクトによって、コントロールできるパラメーターは異なります。 コントロールできるパラメーターは、PAD MFX 画面で確認できます。



「(#)」が付いたパラメーター

3. サウンド・モディファイつまみを回して、パラメーターを設定します。

設定するパラメーターの設定値がポップアップ表示されます。



ポップアップ表示中にファンクション・ボタンを押して、インストの設定を変更することができます。

例) Pitch の場合

ボタン	説明
[F1] (H&R) ボタン	ヘッド部とリム部をセットで変更するか、別々に変更するかを設定します (P.24)。
[F2] (EDIT) ボタン	インスト・パラメーターの細かい設定をする画面に移動します。
[F3] (INIT) ボタン	Pitch の設定を初期値「0」に戻します。

メモ

- ここで設定できるパラメーターは、インストやパッド・エフェクトの設定画面でも設定することができます。
- ポップアップ表示中に [EXIT] ボタンを押して、ポップアップを消すことができます。

サウンド・モディファイつまみを無効にする (サウンド・モディファイ・ロック)

ライブ中など、誤ってサウンド・モディファイつまみを触ってもパラメーターの値が変更されないよう、つまみをロックすることができます (サウンド・モディファイ・ロック)。

[ENTER] ボタンを押しながらサウンド・モディファイ・ボタンを押すたびに、サウンド・モディファイ・ロックをオン／オフすることができます。

ロック中にサウンド・モディファイつまみを回すと、現在のパラメーターの設定値が表示されます。



参照

サウンド・モディファイ・ロックは、MENU から設定することもできます。詳しくは「その他の設定」(P.44)をご覧ください。

キットの設定をする

キット全体の音量や、名前などを設定します。

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

キットの音量を設定する

キットの音量を設定します。

1. [MENU] ボタンを押します。

MENU 画面が表示されます。

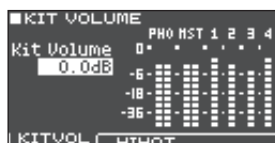
2. カーソル・ボタンで [KIT COMMON] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

KIT COMMON 画面が表示されます。



3. カーソル・ボタンで [KIT VOLUME] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

4. KIT VOLUME 画面(KITVOL タブ)で[-][+] ボタンを押して、値を変更します。



ドラム・トリガーを叩いたときに、各アウトプットがクリップ・レベル (0db) を超えないように調節します。

設定値 -INF ~ +6.0dB

5. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

メモ

KIT 画面で [F3] (KIT VOL) ボタンを押して、KIT VOLUME 画面に移動することもできます。

ハイハットの音量を設定する

ハイハットの音量を設定します。

1. KIT COMMON 画面 (P.27) で [KIT VOLUME] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
2. HI-HAT VOLUME 画面 (HIHAT タブ) で、カーソル・ボタンと [-] [+] ボタンを押して、値を変更します。



ハイハットを叩いて、他のアウトプットとの音量バランスを調整します。

パラメーター	設定値	説明
PedalHH Vol	-INF ~ +6.0dB	ペダル・ハイハットの音量
HH Open/Close Balance	-5 ~ +5	オープン/クローズの音量バランス

3. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

メモ

KIT 画面で [F3] (KIT VOL) ボタンを押して、HI-HAT VOLUME 画面に移動することもできます。

ドラム・トリガーを叩いたときに別の音をミュートする (ミュート・グループ)

ミュート・グループを設定すると、ドラム・トリガーを叩いたときに、同じミュート・グループに設定した別のドラム・トリガーをミュート (消音) することができます。

たとえば、各ドラム・トリガーのインストにユーザー・サンプルを割り当て、ミュート・グループの設定をすると、ドラム・トリガーを叩いてユーザー・サンプルを切り替えながら鳴らすといった使いかたができます。

1. KIT COMMON 画面 (P.27) で [MUTE GROUP] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

MUTE GROUP 画面が表示されます。



2. 設定するドラム・トリガーを選びます (P.15)。

カーソル・ボタンで選ぶこともできます。

3. カーソル・ボタンと [-] [+] ボタンで、ミュート・グループの設定をします。

パラメーター	設定値	説明
MUTE SEND		ミュート・グループ番号を設定します。 MUTE SEND で設定した番号のドラム・トリガーを叩くと、MUTE RECEIVE で同じ番号に設定したドラム・トリガーの音がミュートされます。 ※ 同じドラム・トリガーの同じ場所 (ヘッド部やリム部など) で、MUTE SEND と MUTE RECEIVE を同じ番号に設定しても、ミュートされません。
MUTE RECEIVE	-(OFF)、1 ~ 8	

ミュート・グループを設定すると、選択中のドラム・トリガーを叩いたときにミュートするドラム・トリガーや、どのドラム・トリガーを叩いたときに選択中のドラム・トリガーがミュートされるかが、矢印で示されます。



メモ

すべてのミュート・グループを解除するときは、[F3] (RESET) ボタンを押します。

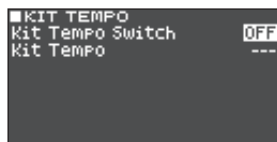
4. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

キットごとにテンポを設定する (キット・テンポ)

キットを選んだとき、ここで設定したテンポが自動的にセットされます。

1. KIT COMMON 画面 (P.27) で [KIT TEMPO] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

KIT TEMPO 画面が表示されます。



2. カーソル・ボタンと [-] [+] ボタンで、設定を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Kit Tempo Switch	OFF	TM-6 PRO 全体で共通のテンポ (P.20) を使用します。キットを変更しても、テンポは変わりません。
	ON	各キットで設定されたテンポを使用します。クリックのテンポや、テンポ同期するエフェクトのテンポを、キットごとに設定することができます。
Kit Tempo	20 ~ 260	キット・テンポ

3. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

メモ

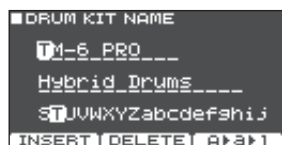
キット・テンポが「ON」のときに、CLICK 画面でキット・テンポと異なるテンポを設定すると、KIT 画面のテンポに「*」(*♩=120) が表示されます。

キットの名前を変更する

現在選んでいるキットの名前を変更します。

1. KIT COMMON 画面 (P.27) で「KIT NAME」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

KIT NAME 画面が表示されます。



2. 名前を変更します。

キット・ネーム (上段) は 11 文字、サブ・ネーム (下段) は 16 文字まで入力できます。

操作子	説明
カーソル・ボタン	変更する文字にカーソルを合わせます。
[-] [+] ボタン	文字を変更します。
[F1] (INSERT) ボタン	カーソル位置に空白を挿入します。
[F2] (DELETE) ボタン	カーソル位置の文字を削除します。
[F3] (A▶a▶1) ボタン	カーソル位置の文字を、大文字／小文字／数字の先頭に移動します。

3. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

オーディオ・ファイルを取り込む／鳴らす (USER SAMPLE)

パソコンで作成したオーディオ・ファイルを、SD カードから TM-6 PRO に取り込み、インストとして鳴らすことができます (ユーザー・サンプル機能)。ユーザー・サンプルは、他のインストと同じように、音色を調節したり、エフェクトをかけたりできます。

TM-6 PRO に取り込めるオーディオ・ファイル

	WAV ファイル
形式 (拡張子)	WAV (.wav)
サンプリング周波数	44.1kHz
ビット数	16、24 ビット
1 ファイルあたりの時間	最大 180 秒
ファイル数	最大 1,000 個
音の長さの合計 (最大)	モノ: 48 分 ステレオ: 24 分

※ 15 文字以上のファイル名やフォルダー名は、正しく表示されません。また、2 バイト文字を使ったファイルやフォルダーには対応していません。

オーディオ・ファイルを取り込む

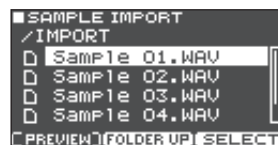
オーディオ・ファイルをユーザー・サンプルとして、TM-6 PRO に取り込みます。

1. SD カードを TM-6 PRO に挿入します (P.7)。

2. [USER SAMPLE] ボタンを押します。

3. カーソル・ボタンで「IMPORT」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SAMPLE IMPORT 画面が表示されます。



4. オーディオ・ファイルを選び、[F3] (SELECT) ボタンまたは [ENTER] ボタンを押します。

ボタン	機能
[V] [M] ボタン	カーソルの移動
[<] [>] ボタン	フォルダーを抜ける／フォルダーに入る
[F1] (PREVIEW) ボタン	選んでいるオーディオ・ファイルを再生することができます。
[F2] (FOLDER UP) ボタン	フォルダーを抜ける
[F3] (SELECT) ボタン／[ENTER] ボタン	フォルダーに入る／ファイルの決定

5. カーソル・ボタンでインポート先の番号を選び、[F3] (IMPORT) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

※ すでにデータがある番号を選ぶと、「User Sample Exists!」とメッセージが表示されます。データの無い番号を選んでください。

6. 「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

オーディオ・ファイルが取り込まれます。

※ 画面に「Processing...」と表示されている間は、絶対に電源を切らないでください。

フォルダー内のオーディオ・ファイルをまとめて取り込む

フォルダー内すべてのオーディオ・ファイルを、まとめてユーザー・サンプルとして取り込むことができます。

1. SD カードを TM-6 PRO に挿入します (P.7)。

2. SAMPLE IMPORT 画面を表示させます (P.29)。

3. 取り込むフォルダーにあるオーディオ・ファイルを 1 つ選び、[F3] (SELECT) ボタンまたは [ENTER] ボタンを押します。

4. カーソル・ボタンでインポート先の先頭の番号を選び、[F2] (IMPORT ALL) ボタンを押します。

まとめて取り込むフォルダーの名前と、インポート先の先頭の番号が表示されます。

※ インポート先の範囲に 1 つでもユーザー・サンプルがあると、「User Sample Exists! Not Enough Space to Import All」 とメッセージが表示されます。ユーザー・サンプルの無い範囲を確認してから番号を選んでください。

5. [F3] (EXECUTE) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

6. 「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

オーディオ・ファイルが取り込まれます。

※ 画面に「Processing...」と表示されている間は、絶対に電源を切らないでください。

ユーザー・サンプルをインストに割り当てる／鳴らす

1. [MENU] ボタンを押します。

2. カーソル・ボタンで「INST」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

3. インストを割り当てるドラム・トリガーを選びます (P.15)。

4. 割り当てたいレイヤーのインスト・カテゴリにカーソルを合わせ、[-] [+] ボタンで「USER SAMPLE」を選びます。



5. インスト名にカーソルを合わせ、[-] [+] ボタンでユーザー・サンプルを選びます。



6. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

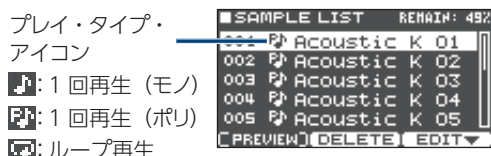
ユーザー・サンプルを割り当てたドラム・トリガーを叩くと、ユーザー・サンプルが鳴ります。

ユーザー・サンプルを一覧表示する

取り込んだすべてのユーザー・サンプルを一覧表示します。

1. [USER SAMPLE] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンで「LIST」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SAMPLE LIST 画面が表示されます。



ボタン	説明
[F1] (PREVIEW) ボタン	選んでいるユーザー・サンプルを再生することができます。再生中にもう一度 [F1] (PREVIEW) ボタンを押すと、停止します。
[F2] (DELETE) ボタン	選んでいるユーザー・サンプルを削除することができます。
[F3] (EDIT) ボタン	ユーザー・サンプルの編集（再生／停止位置の設定、再生のしかた（プレイ・タイプ））などを設定することができます。

メモ

カーソル [<] [>] ボタンを押して、カーソルを大きく移動することができます。

ユーザー・サンプルをエディットする

ユーザー・サンプルの再生／停止位置の設定や、再生のしかた（プレイ・タイプ）などを設定することができます。

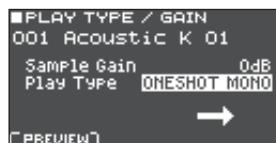
ユーザー・サンプルの発音方法や音量を設定する

ドラム・トリガーを叩いたときに、ユーザー・サンプルを1回だけ鳴らすか、繰り返し鳴らすかなど、発音方法を設定することができます。また、ユーザー・サンプルの音量も調節することができます。

1. ユーザー・サンプル一覧から、設定するユーザー・サンプルを選びます (P.31)。
2. [F3] (EDIT) ボタンを押します。

3. カーソル・ボタンで「Play Type/Gain」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

PLAY TYPE/GAIN 画面が表示されます。



パラメーター	設定値	説明
Sample Gain	-12 ~ +12 [dB]	ユーザー・サンプルの音量を調節します。
Play Type	ONESHOT MONO	ドラム・トリガーを叩いたとき、鳴っている音を消してから発音します。音を重ねずに発音します（モノ）。
	ONESHOT POLY	同じドラム・トリガーを連打したとき、音が重なって発音します（ポリ）。
	LOOP ALT	ユーザー・サンプルを繰り返し鳴らします（ループ）。ドラム・トリガーを叩くたびに、発音と停止を交互に繰り返します。
[F1] (PREVIEW) ボタン		現在の設定で、ユーザー・サンプルを再生することができます。再生中にもう一度 [F1] (PREVIEW) ボタンを押すと、停止します。

4. カーソル・ボタンと [-] [+] ボタンで、設定を変更します。

メモ

発音したままのユーザー・サンプルを止める場合は、オール・サウンド・オフ (P.10) で発音を止めることもできます。

ユーザー・サンプルの発音範囲を設定する

ユーザー・サンプルの発音範囲を設定することができます。

1. ユーザー・サンプル一覧から、設定するユーザー・サンプルを選びます (P.31)。
2. [F3] (EDIT) ボタンを押します。
3. カーソル・ボタンで「Adjust Start/End」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

START/END 画面が表示されます。



4. カーソル・ボタンと [-] [+] ボタンで、設定を変更します。

パラメーター	説明
ZOOM	波形表示をズーム・イン／アウトします。 [ENTER] ボタンを押しながらカーソル [<] [>] ボタンを押すと、横軸方向でズーム・イン／アウトします。 [Λ] [V] ボタンを押すと、縦軸方向でズーム・イン／アウトします。
START	スタート・ポイント（ユーザー・サンプルの発音を始める位置）を調節します。 横軸方向の ZOOM の倍率に応じて、値の変化する大きさが変わります。
END	エンド・ポイント（ユーザー・サンプルの発音を終える位置）を調節します。 横軸方向の ZOOM の倍率に応じて、値の変化する大きさが変わります。
[F1] (PREVIEW) ボタン	現在の設定で、ユーザー・サンプルを再生することができます。再生中にもう一度 [F1] (PREVIEW) ボタンを押すと、停止します。

メモ

[ENTER] ボタンを押しながら [-] [+] ボタンを押して、スタート・ポイント／エンド・ポイントの位置を大きく変更することができます。

ユーザー・サンプルの名前を変更する

ユーザー・サンプルの名前を変更します。

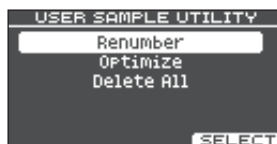
1. ユーザー・サンプル一覧から、名前を変更するユーザー・サンプルを選びます (P.31)。
2. [F3] (EDIT) ボタンを押します。
3. カーソル・ボタンで「Rename」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
4. 名前を変更します (P.29)。
5. [EXIT] ボタンを押して、SAMPLE NAME 画面から抜けます。

ユーザー・サンプルを整理する

ユーザー・サンプルの番号を整理したり、ユーザー・サンプル領域を最適化したりすることができます。

1. [USER SAMPLE] ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンで「UTIL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

USER SAMPLE UTILITY 画面が表示されます。



3. カーソル・ボタンで機能を選び、[ENTER] ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

ユーザー・サンプルの番号を前に詰める (Renumber)

ユーザー・サンプルの取り込みと削除を繰り返すと、番号がとびとびになります。

この機能を使うと、ユーザー・サンプルを前詰めに整理できます。キットに割り当てたユーザー・サンプルも、正しく鳴るように更新されます。

※ Renumber を実行すると、これまでに保存したバックアップ・データやキット・バックアップ・データ（ユーザー・サンプルを含まないもの）を読み込んだとき、キットに割り当てられたユーザー・サンプルが正しく再現されなくなります。

ユーザー・サンプル領域を最適化する (Optimize)

ユーザー・サンプルの取り込みと削除を繰り返すと、ユーザー・サンプル領域が断片化し、取り込めるユーザー・サンプルが少なくなることがあります。

この機能を使うと、領域を最適化して、ユーザー・サンプルを取り込めるようにします。

ご注意！

- 実行前に必ずバックアップをしてください (P.39)。
- この処理は、1 時間以上かかることがあります（ユーザー・サンプルの数やサイズにより変動します）。
- 処理中は、絶対に電源を切らないでください。ユーザー・サンプルが失われる恐れがあります。
- 最適化しても、効果がない場合があります。

すべてのユーザー・サンプルを削除する (Delete All)

ユーザー・メモリー内のすべてのユーザー・サンプルを削除します。

ご注意！

キットで使われているユーザー・サンプルもすべて削除されます。ユーザー・サンプルを割り当てているドラム・トリガーは、音が鳴らなくなります。

4. 「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
選んだ機能が実行されます。
5. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

便利な機能

エディット前のキットと聴き比べる／戻す (Undo)

現在の設定とキット選択直後の設定を聴き比べたり、設定を戻したりすることができます (アンドゥ)。



1. エディットするキットを選びます。

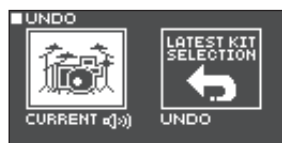
キットを選んだ時点で、選ばれたキットの情報が UNDO に保存されます。

2. キットをエディットします。

3. KIT 画面 (P.20) で、[F2] (TOOLS) ボタンを押します。

4. カーソル・ボタンで「Undo」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

UNDO 画面が表示されます。



音の聴き比べをする

カーソル・ボタンでキットを切り替えながら演奏し、聴き比べます。

パラメーター	説明
CURRENT	現在のキットの設定
UNDO	キット選択直後の設定

現在の設定のままにする

[EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

キット選択直後の設定に戻す

以降の手順に沿って操作をします。

5. 「UNDO」を選び、[F3] (RESTORE) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

6. 「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

現在のキットの設定が、キット選択直後の設定に戻ります。

7. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

設定をコピーする (Copy)

TM-6 PRO では、各種設定を本体や SD カードからコピーすることができます。

また、コピー元とコピー先の設定を入れ替えることもできます。

ご注意！

コピーを実行すると、コピーする先の内容は上書きされます。設定を残しておきたいときは、SD カードにバックアップしてください (P.39)。

1. KIT 画面 (P.20) で、[F2] (TOOLS) ボタンを押します。

2. カーソル・ボタンで「Copy」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

COPY 画面が表示されます。



3. カーソル・ボタンでコピー・メニューを選び、[ENTER] ボタンを押します。

コピー・メニュー	説明
KIT	キットをコピーします。
PAD	インストの割り当てやパッド・エフェクトの設定など、パッドごとの設定をコピーします。
TRIGGER	トリガー・バンクをコピーします。

4. 選んだメニューに応じて、設定をコピーします。

例) キットをコピーする (KIT)

1. COPY 画面で「KIT」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

COPY KIT 画面が表示されます。



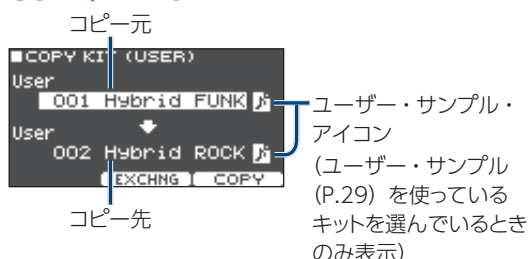
2. カーソル・ボタンでコピーするメモリーを選び、[ENTER] ボタンを押します。

パラメーター	説明
USER	ユーザー・メモリーからコピーします。コピー元がユーザー・メモリーの場合のみ、コピー元とコピー先を入れ替える (エクスチェンジ) ことができます。

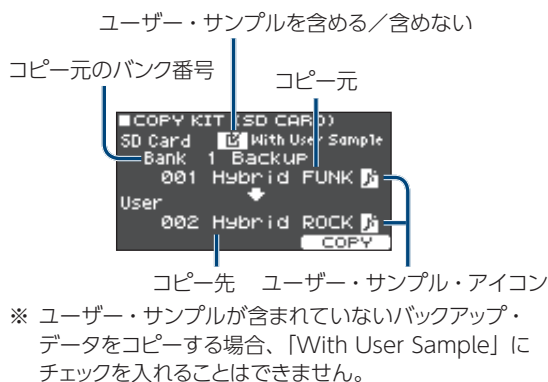
パラメーター	説明
PRESET	プリセット・メモリーのキットをコピーします。工場出荷時のキットの設定に戻したいときに選びます。 ※ 工場出荷時のキットに割り当てられているユーザー・サンプルは、コピーされません。
SD CARD	SD カードに保存されたバックアップ・データからキットをコピーします。

3. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンでコピーの設定をします。

USER、PRESET



SD CARD



4. [F3] (COPY) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

メモ

[F2] (EXCHANGE) ボタンを押すと、ユーザー・メモリーを入れ替えることができます (USER のみ)。

5. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

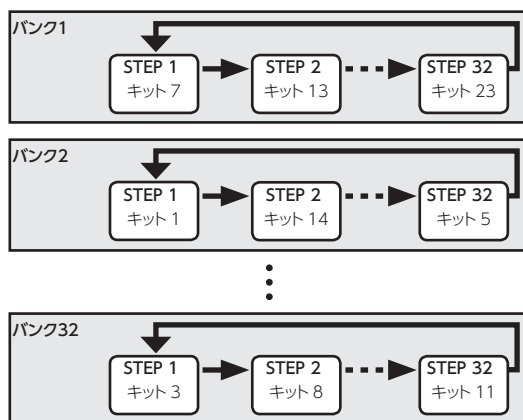
キットがコピーされます。

6. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

キットを順番に呼び出す (SET LIST)

キットを呼び出す順序を、1 から 32 番目 (32 ステップ) まで設定できます。これを「セット・リスト」といい、セット・リストは 32 個 (バンク 1 ~ 32) 作成できます。

ライブで使う順番に設定しておけば、次に使うキットをすぐに呼び出すことができます。



セット・リストを作る

1. KIT 画面 (P.20) で、[F2] (TOOLS) ボタンを押します。
2. カーソル・ボタンで「SET LIST Edit」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SET LIST 画面が表示されます。



セット・リストを入れ替える

ボタン	説明
[F1] (MOVE UP) ボタン	カーソル位置のセット・リストの順番を変えます。
[F2] (MOVE DOWN) ボタン	カーソル位置のセット・リストの順番を変えます。
[F3] (EDIT) ボタン	カーソル位置のセット・リストのステップをエディットします。

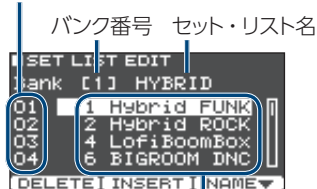
セット・リストのステップをエディットする

3. カーソル・ボタンを押して、エディットするセット・リストを選びます。

4. [F3] (EDIT) ボタンを押します。

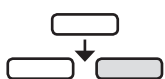
SET LIST EDIT 画面が表示されます。

ステップ番号



ステップのキット

5. カーソル・ボタンと [-] [+] ボタンで、各ステップのキットを変更します。

ボタン	説明
[F1] (DELETE) ボタン	カーソル位置のキットを削除し、以降のステップを 1 つ前にずらします。 
[F2] (INSERT) ボタン	カーソル位置に同じキットを挿入し、以降のステップを 1 つ後ろにずらします。  メモ セット・リストが空の場合は、[F2] (INSERT) ボタンを押して、キットを挿入します。
[F3] (NAME) ボタン	セット・リストの名前を変更します。

6. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

セット・リストを使う

バンクを選ぶ

1. KIT 画面 (P.20) で、[F1] (SET LIST) ボタンを押します。

セット・リストがオンになります。

現在のキット



バンク番号 セット・リスト名

2. [F2] (◀BANK#) ボタンまたは [F3] (BANK#▶) ボタンを押して、使用するバンクを選びます。

キットを切り替える

1. [-] [+] ボタンで、設定したステップの順にキットを呼び出します。

2. 演奏が終わったら、[F1] (SET LIST) ボタンを押します。

セット・リストがオフになります。

メモ

- フットスイッチやドラム・トリガーに機能を割り当てて、セット・リストやキットを呼び出すことができます。詳しくは「フットスイッチやドラム・トリガーに機能を割り当てる」(P.43) をご覧ください。
- 各キットの音量にばらつきがある場合は、Kit Volume (キット全体の音量) を調節してください (P.27)。

SD カードにキットをバックアップする (1 Kit Save)

TM-6 PRO に記憶されているキット単体の設定を、SD カードにバックアップします (最大 999 個)。

1. SD カードを TM-6 PRO に挿入します (P.7)。

2. KIT 画面 (P.20) で、[F2] (TOOLS) ボタンを押します。

3. カーソル・ボタンで「1 KIT Save」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

1KIT SAVE 画面が表示されます。



ユーザー・サンプル・アイコン
(ユーザー・サンプル (P.29) を使って
いるキットを選んでいるときのみ表示)

4. バックアップの設定をします。

パラメーター	説明
With User Sample	キットに割り当てられているユーザー・サンプルも一緒にバックアップするか選びます。
User	バックアップするキットを選びます。
SD Card	バックアップ番号を選びます。

※ ユーザー・サンプルもバックアップする場合、ユーザー・サンプルのサイズによっては、保存に数分かかることがあります。また、ユーザー・サンプルをバックアップしない場合、バックアップ後に本体のユーザー・サンプルを削除したり、リナンバーしたりすると、キット・バックアップ・データを読み込んでも、キットは正しく再現されません。

5. [F3] (EXECUTE) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

6. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD カードにキット・バックアップ・データが保存されます。

7. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

キット・バックアップ・データを SD カードから読み込む (1 Kit Load)

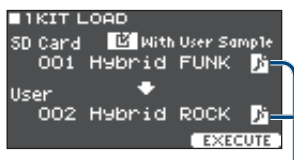
SD カードに保存したキット・バックアップ・データを TM-6 PRO にロードします。

1. SD カードを TM-6 PRO に挿入します (P.7)。

2. KIT 画面 (P.20) で、[F2] (TOOLS) ボタンを押します。

3. カーソル・ボタンで「1 KIT Load」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

1KIT LOAD 画面が表示されます。



ユーザー・サンプル・アイコン (ユーザー・サンプル (P.29) を使っているキットを選んでいるときのみ表示)

4. ロードの設定をします。

パラメーター	説明
With User Sample	キットと一緒に保存されているユーザー・サンプルをロードするか選びます。
SD Card	ロードするバックアップ番号を選びます。
User	ロード先のキットを選びます。

※ ユーザー・サンプルをロードすると、すでに同じユーザー・サンプルが存在していても、新しくユーザー・サンプルが作成されます。また、ロードしたキットには、新しく作成されたユーザー・サンプルが自動的に割り当てられます。

※ ユーザー・サンプルをロードするには、ユーザー・サンプルの空き容量が必要です。

※ ユーザー・サンプルが含まれていないキット・バックアップ・データをロードする場合、「With User Sample」にチェックを入れることはできません。

5. [F3] (EXECUTE) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

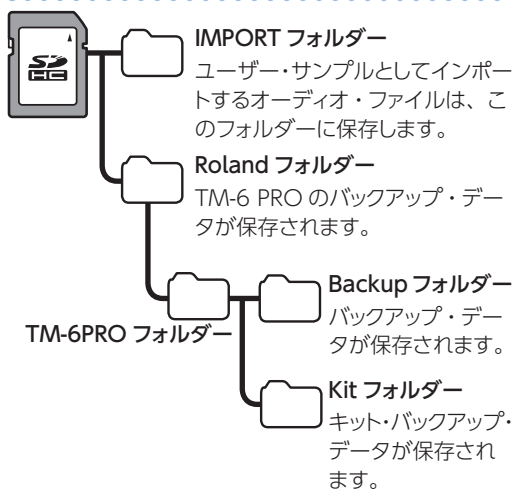
中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

6. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD カードからバックアップ・データが読み込まれます。

7. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

SD カードのフォルダー構成



設定する (MENU)

設定の基本操作

TM-6 PRO 全体の設定、インストやエフェクトなどの設定をします。

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

1. [MENU] ボタンを押します。

MENU 画面が表示されます。



2. カーソル・ボタンで設定したいメニューを選び、[ENTER] ボタンを押します。

メニュー	説明
INST	インストの設定をします (P.24)。
PAD-FX	パッド・エフェクトの設定をします (P.25)。
KIT-FX	キット・エフェクトの設定をします (P.25)。
KIT COMMON	キットの設定をします (P.27)。
MIDI	キットや TM-6 PRO 全体の MIDI の設定をします。
SYS	TM-6 PRO 全体の設定をします (P.38)。

3. 選んだメニューに応じて、設定を変更します。

4. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

MIDI の設定をする

キットごとに MIDI 送受信の設定をする

ドラム・トリガーを叩いたときに送受信する MIDI 情報の設定をすることができます。

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

1. MENU 画面で [MIDI] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

MIDI 画面が表示されます。



- カーソル・ボタンで [KIT MIDI] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
- [F1] (NOTE) ~ [F3] (CH) ボタンを押して、設定する項目を選びます。

ボタン	説明
[F1] (NOTE) ボタン	各ドラム・トリガーが送受信する MIDI ノート・ナンバー
[F2] (GATE) ボタン	各ドラム・トリガーが送信するノートの鳴る長さ
[F3] (CH) ボタン	各ドラム・トリガーのノート・メッセージを送受信する MIDI チャンネル

4. 設定するドラム・トリガーを選びます (P.15)。

カーソル・ボタンで選ぶこともできます。

5. [-] [+] ボタンで値を変更します。

※ 外部 MIDI 機器からドラム・トリガーを鳴らす場合、鳴らすドラム・トリガーの MIDI ノート・ナンバーと MIDI チャンネルを合わせる必要があります。

TM-6 PRO 全体の MIDI の設定をする

TM-6 PRO 全体の MIDI の設定をします。

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

- MENU 画面で [MIDI] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
- カーソル・ボタンで [GLOBAL SETUP] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
- [F1] (BASIC) ~ [F3] (PRGCHG) ボタンを押して、設定する項目を選びます。

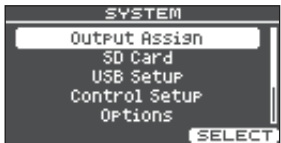
ボタン	説明
[F1] (BASIC) ボタン	TM-6 PRO が MIDI データを送受信するチャンネルの設定など、MIDI の基本的な設定をします。
[F2] (CTRL) ボタン	ハイハットの踏み込む深さなどに合わせて送受信する MIDI メッセージや、MIDI の同期に関する設定などをします。
[F3] (PRGCHG) ボタン	キットと送受信されるプログラム・チェンジとの対応を、自由に設定することができます。

- カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンで値を変更します。
- [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

TM-6 PRO 全体の設定をする

TM-6 PRO の出力先の設定や、フットスイッチの設定など、TM-6 PRO 全体で共通の設定をします。

- 1. [MENU] ボタンを押します。
MENU 画面が表示されます。
- 2. カーソル・ボタンで「SYS」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
SYSTEM 画面が表示されます。



- 3. カーソル・ボタンで設定したい項目を選び、[ENTER] ボタンを押します。

メニュー	説明
Output Assign	音の出力先の設定をします。
SD Card	TM-6 PRO に記憶されている設定を、SD カードに保存（バックアップ）したり、TM-6 PRO に読み込んだり（ロード）することができます。
USB Setup	USB ドライバーや USB オーディオの設定をします（P.41）。
Control Setup	フットスイッチやドラム・トリガーに機能を割り当てます（P.43）。
Options	ディスプレイやサウンド・モディファイ・ロックなどの設定をします（P.44）。
Auto Off	Auto Off の設定をします（P.44）。
System Info	プログラムのバージョンなど、TM-6 PRO 本体に関する情報を表示します（P.45）。
Factory Reset	工場出荷時の設定に戻します（P.45）。

- 4. 選んだメニューに応じて、設定を変更します。
- 5. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

音の出力先を設定する

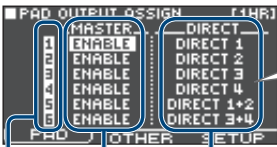
音の出力先（MASTER OUT 端子、DIRECT OUT 端子、PHONES 端子）を設定します。

メモ

- USB オーディオ（P.42）の出力先の設定は、MASTER OUT 端子と DIRECT OUT 端子からの出力設定と共通の設定になります。
- 設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』（PDF）をご覧ください。

- 1. SYSTEM 画面で「Output Assign」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

出力設定画面が表示されます。



MASTER OUT 端子の設定 DIRECT OUT 端子の設定
トリガー・インプット番号

DIRECT1 を選んだ場合、DIRECT1 にモノで出力されます。
DIRECT 1+2 を選んだ場合、DIRECT1 に L 成分、DIRECT 2 に R 成分を出力します。

- 2. カーソル・ボタン／[-] [+]
ボタン／ファンクション・ボタンで、出力先を設定します。

ボタン	説明
[F1] (PAD) ボタン	各ドラム・トリガーの音の出力先を設定します。
[F2] (OTHER) ボタン	リバーブ（キット・エフェクト）／ソング／クリック（クリック・トラックを含む）の出力先を設定します。
[F3] (SETUP) ボタン	各出力端子の出力レベルなどを設定します。

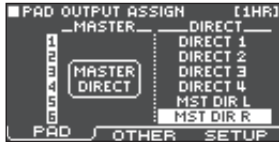
- 3. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

MASTER OUT 端子を DIRECT OUT 端子として使う

- 1. OUTPUT SETUP 画面（SETUP タブ）の Master Direct Sw を、「DIRECT」に設定します。

2. PAD OUTPUT ASSIGN (PAD タブ) で、出力の設定をします。

例) トリガー・インプット 5 (TRIG 5) の音を MASTER OUT L 端子へ、トリガー・インプット 6 (TRIG 6) の音を MASTER OUT R 端子へ出力する場合



メモ

- MASTER OUT 端子の出力は、マスター・コンプレッサーとマスター・イコライザーの効果が無効になります ([MASTER] つまみの設定は有効です)。この設定は USB オーディオのパソコンへの出力にも有効です。
- PHONES 端子からは、マスター・コンプレッサーとマスター・イコライザー込みの音出力されます。

データをバックアップする

TM-6 PRO に記憶されているすべての設定を SD カードに保存 (バックアップ) したり、TM-6 PRO に書き戻したり (ロード) することができます。

メモ

キットごとにバックアップ／ロードすることもできます。詳しくは「SD カードにキットをバックアップする (1 Kit Save)」(P.35)、「キット・バックアップ・データを SD カードから読み込む (1 Kit Load)」(P.36) をご覧ください。

SD カードにバックアップする

TM-6 PRO に記憶されているすべての設定を保存します (最大 99 セット)。

1. SD カードを TM-6 PRO に挿入します (P.7)。
2. SYSTEM 画面 (P.38) で「SD Card」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD CARD 画面が表示されます。



3. カーソル・ボタンで「Save Backup」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD CARD SAVE BACKUP 画面が表示されます。



4. バックアップの設定をします。

パラメーター	説明
User Sample	インポート済みのユーザー・サンプルと一緒にバックアップするか選びます。
Bank	バックアップ番号を選びます。

- ※ ユーザー・サンプルもバックアップする場合、ユーザー・サンプルのサイズによっては、保存に数十分かかることがあります。また、ユーザー・サンプルをバックアップしない場合、ユーザー・サンプルを削除したり、リナンバーしたりすると、バックアップを読み込んでも、キットは正しく再現されません。

5. [F3] (NEXT) ボタンを押します。

メモ

バックアップ・データの名前を変更したいときは、[F1] (NAME) ボタンを押して、名前を付けます (P.29)。

6. [F3] (EXECUTE) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

7. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD カードに設定が保存されます。

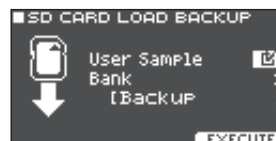
8. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

バックアップ・データを SD カードから読み込む

SD カードに保存したバックアップ・データを TM-6 PRO に読み込みます (ロード)。

1. SD カードを TM-6 PRO に挿入します (P.7)。
2. SYSTEM 画面 (P.38) で「SD Card」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
SD CARD 画面が表示されます。
3. カーソル・ボタンで「Load Backup」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD CARD LOAD BACKUP 画面が表示されます。



設定する (MENU)

4. ロードの設定をします。

パラメーター	説明
User Sample	ユーザー・サンプルを一緒にロードするか選びます。
Bank	バックアップ番号を選びます。

※ ユーザー・サンプルをロードすると、本体内のユーザー・サンプルは、バックアップ・データに含まれるユーザー・サンプルに上書きされます。また、ユーザー・サンプルのサイズによっては、ロードに数十分かかることがあります。

5. [F3] (EXECUTE) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

6. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD カードからバックアップ・データが読み込まれます。

7. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

バックアップ・データを SD カードから削除する

不要なバックアップ・データ（ユーザー・サンプルを含む）を SD カードから削除します。

1. SD カードを TM-6 PRO に挿入します (P.7)。

2. SYSTEM 画面 (P.38) で [SD Card] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD CARD 画面が表示されます。

3. カーソル・ボタンで「Delete」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD CARD DELETE 画面が表示されます。



4. ファンクション・ボタンと [-] [+] ボタンを押して、削除するデータを選びます。

ボタン	説明
[F1] (BACKUP) ボタン	バックアップ・データを削除します。
[F2] (1 KIT) ボタン	キット・バックアップ・データを削除します。

パラメーター	説明
Bank (BACKUP のとき)	削除するバックアップ番号を選びます。
SD Card (1 KIT のとき)	削除するキット・バックアップ番号を選びます。

5. [F3] (EXECUTE) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

6. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD カードからバックアップ・データが削除されます。

7. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

SD カードの使用状況を確認する

SD カードに保存されている設定の数などを確認することができます。

1. SD カードを TM-6 PRO に挿入します (P.7)。

2. SYSTEM 画面 (P.38) で [SD Card] を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD CARD 画面が表示されます。

3. カーソル・ボタンで「SD Card Info」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SD CARD INFO 画面が表示されます。

■ SD CARD INFO		
	Used / Total	
Backup All :	1 /	39
Backup 1 Kit :	1 /	399

パラメーター	説明
Backup All	保存されているバックアップ・データの数
Backup 1 Kit	保存されているキット・バックアップ・データの数

4. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

SD カードを初期化する

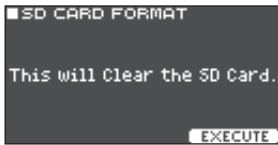
SD カードを初期化（フォーマット）します。

※ 初めて SD カードを使うときは、必ず TM-6 PRO で SD カードを初期化してください。

ご注意！

SD カードを初期化すると、SD カード内のデータはすべて消去されます。

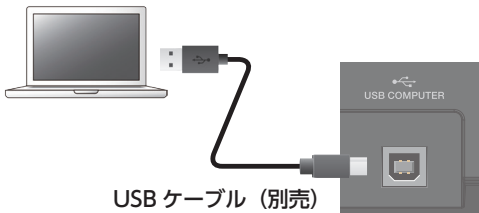
1. SD カードを TM-6 PRO に挿入します (P.7)。
2. SYSTEM 画面 (P.38) で「SD Card」を選び、
[ENTER] ボタンを押します。
SD CARD 画面が表示されます。
3. カーソル・ボタンで「SD Card Format」を選び、
[ENTER] ボタンを押します。
SD CARD FORMAT 画面が表示されます。



4. [F3] (EXECUTE) ボタンを押します。
確認画面が表示されます。
中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
5. [OK] を選び、[ENTER] ボタンを押します。
SD カードが初期化されます。

パソコンと接続して鳴らす

パソコンと接続して、パソコンにオーディオや MIDI を録音することができます。



USB ケーブル (別売)

ご注意！

- パソコンの機種によっては、正しく動作しないことがあります。対応 OS については、ローランドのホームページをご覧ください。
- USB ケーブルは付属していません。ご購入の際には、TM-6 PRO をお求めになった販売店にお問い合わせください。
- USB2.0 ケーブルをお使いください。
- パソコンの USB 端子は、USB2.0 Hi-Speed 対応のものをお使いください。

USB ドライバーのインストール／設定

USB ドライバーは、パソコン上のソフトウェアと TM-6 PRO との間でデータをやりとりするソフトウェアです。

USB AUDIO として音声を送受信するには、USB ドライバーのインストールが必要です。

USB ドライバーをインストールする

USB ドライバーのダウンロードとインストール手順について詳しくは、ローランドのホームページをご覧ください。

<https://www.roland.com/jp/support/>

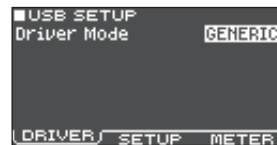
メモ

USB ドライバーをインストールする前に、TM-6 PRO の USB ドライバーの設定を「VENDOR」に変更しておきます。

USB ドライバーの設定をする

TM-6 PRO 専用 USB ドライバーと、OS 標準のドライバーを切り替えます。

1. SYSTEM 画面 (P.38) で「USB Setup」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
USB SETUP 画面が表示されます。
2. [F1] (DRIVER) ボタンを押します。



3. [-] [+] ボタンを押して、値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Driver Mode	GENERIC	OS 標準のドライバーを使用します。 USB MIDI のみに限定されます。
	VENDOR	ローランドが提供している TM-6 PRO 専用のドライバーを使用します。 USB MIDI と USB オーディオが使用できます。

メモ

USB ドライバーの設定を変更すると、以下のメッセージが表示されます。



USB ドライバーの設定は、本体の電源を入れ直すと有効になります。

4. 電源を入れ直します。

設定する (MENU)

USB オーディオの出力を設定する

USB COMPUTER 端子から出力される、USB オーディオの出力先を設定します。
USB オーディオの出力音を、8ch のマルチ・トラックでパソコン上の DAW などに録音することができます。

メモ

DAW 側の設定については、お使いの DAW の取扱説明書をご覧ください。

USB オーディオの出力先を設定する

USB オーディオの各チャンネルに出力される音は、TM-6 PRO 本体の出力端子に対応しています。そのため、PAD OUTPUT ASSIGN 画面での設定 (P.38) に従って、USB オーディオの各チャンネルに出力されます。

USB のチャンネル 対応する出力端子

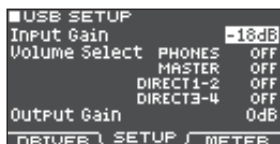
Ch1	PHONES OUT (L)
Ch2	PHONES OUT (R)
Ch3	MASTER OUT L
Ch4	MASTER OUT R
Ch5	DIRECT OUT 1
Ch6	DIRECT OUT 2
Ch7	DIRECT OUT 3
Ch8	DIRECT OUT 4

USB オーディオの出力レベルを調節する

1. SYSTEM 画面 (P.38) で「USB Setup」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

USB SETUP 画面が表示されます。

2. [F2] (SETUP) ボタンを押します。



3. Output Gain にカーソルを合わせ、[-] [+] ボタンで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Output Gain	-24 ~ +24dB	出力レベルの調節 USB COMPUTER 端子から出力される、すべての USB オーディオの出力に有効です。

4. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

USB オーディオの入力を設定する

USB COMPUTER 端子に入力される、USB オーディオの入力を設定します。
パソコンで再生したオーディオを、TM-6 PRO で鳴らすことができます。

メモ

USB オーディオの各チャンネルの音は、TM-6 PRO 本体の対応する出力端子から出力されます。

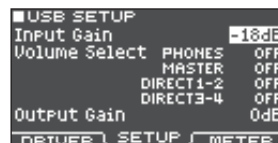
USB のチャンネル 対応する出力端子

Ch1	PHONES OUT (L)
Ch2	PHONES OUT (R)
Ch3	MASTER OUT L
Ch4	MASTER OUT R
Ch5	DIRECT OUT 1
Ch6	DIRECT OUT 2
Ch7	DIRECT OUT 3
Ch8	DIRECT OUT 4

1. SYSTEM 画面 (P.38) で「USB Setup」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

USB SETUP 画面が表示されます。

2. [F2] (SETUP) ボタンを押します。



3. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Input Gain	-36 ~ +12dB	入力レベルの調節 USB COMPUTER 端子から入力される、すべての USB オーディオの入力に有効です。
Volume Select		USB オーディオ (PHONES、MASTER、DIRECT1-2、DIRECT3-4) の入力音量を調節するつまみを設定します。
PHONES、MASTER、DIRECT1-2、DIRECT3-4	OFF	つまみで音量を調節しません。
	SONG	[SONG] つまみで音量を調節します。
	CLICK	[CLICK] つまみで音量を調節します。

4. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

USB オーディオの入出力レベルを確認する

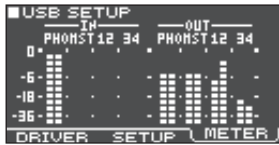
USB オーディオの入出力レベルを確認することができます。

1. **SYSTEM** 画面 (P.38) で「**USB Setup**」を選び、**[ENTER]** ボタンを押します。

USB SETUP 画面が表示されます。

2. **[F2] (METER)** ボタンを押します。

USB オーディオの入出力レベルがメーター表示されます。



表示	USB のチャンネル	接続端子
PHO	Ch1、2	PHONES OUT (L/R)
MST	Ch3、4	MASTER OUT L、R
1	Ch5	DIRECT OUT 1
2	Ch6	DIRECT OUT 2
3	Ch7	DIRECT OUT 3
4	Ch8	DIRECT OUT 4

3. **[EXIT]** ボタンを数回押して、**KIT** 画面に戻ります。

フットスイッチやドラム・トリガーに機能を割り当てる

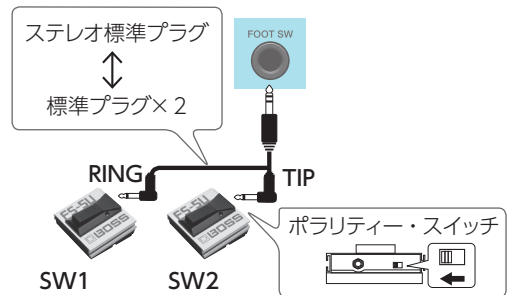
TM-6 PRO に接続したフットスイッチ (別売: BOSS FS-5U、FS-6) やドラム・トリガーに、キットの切り替えやセット・リストの切り替えなどの機能を割り当てることができます。

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

フットスイッチに機能を割り当てる

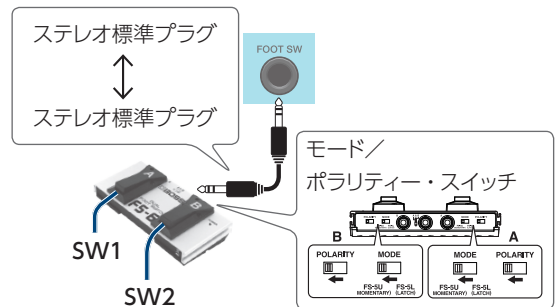
FS-5U を接続する場合



※ モノ・ケーブルで 1 台の FS-5U を接続する場合は、SW2 になります。

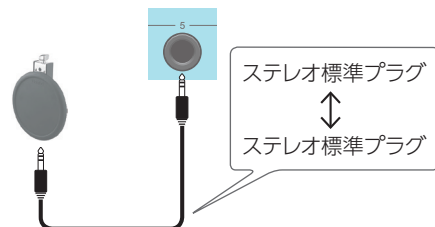
※ FS-5L は使用できません。

FS-6 を接続する場合



ドラム・トリガーに機能を割り当てる

TRIGGER IN 5 端子に接続したドラム・トリガーに、機能を割り当てるすることができます。



設定する(MENU)

1. SYSTEM 画面 (P.38) で「Control Setup」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
CONTROL SETUP 画面が表示されます。



2. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンで値を変更します。

メモ

- フットスイッチ/ドラム・トリガーを使ってセット・リスト (P.34) のキットを切り替えるときは、機能を「KIT# DEC」または「KIT# INC」に設定し、セット・リストをオンにします（あらかじめ、セット・リストの設定をしておきます）。
- ドラム・トリガーを叩いても音が鳴らないようにするには、トリガー・インプット 5 のインスト (A と B) に「OFF」を選んでください (P.24)。
- Control Setup の設定は、SONG SETUP 画面 (P.22) からでも設定することができます。

3. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

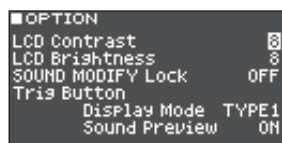
その他の設定

ディスプレイやサウンド・モディファイ・ロックなどの設定をします。

参照

設定できるパラメーターについては、『データ・リスト』(PDF) をご覧ください。

1. SYSTEM 画面 (P.38) で「Options」を選び、[ENTER] ボタンを押します。
OPTION 画面が表示されます。



2. カーソル・ボタンでパラメーターを選び、[-] [+] ボタンで値を変更します。
3. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする (Auto Off)

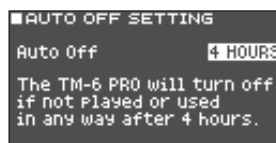
本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (Auto Off 機能)。

自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください。

※ 電源を再びオンにするときは、電源を入れ直してください (P.10)。

1. SYSTEM 画面 (P.38) で「Auto Off」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

AUTO OFF SETTING 画面が表示されます。



2. [-] [+] ボタンを押して、Auto Off 機能の設定をします。

設定値	説明
OFF	電源は自動的に切れません。
4 HOURS	4 時間以上ドラム・トリガーを叩かなかったり何も操作をしなかったりすると、自動的に電源が切れます。

3. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

メモ

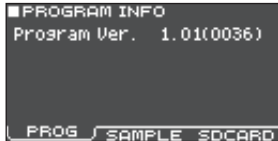
Auto Off 機能を「4 HOURS」に設定していると、電源が切れる 30 分前に「MESSAGE: AUTO OFF, The TM-6 PRO will turn off in 30 min.」と表示されます。

TM-6 PRO 本体に関する情報を表示する

プログラムのバージョンなど、TM-6 PRO 本体に関する情報を表示します。

1. SYSTEM 画面 (P.38) で「System Info」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

インフォメーション画面が表示されます。



2. [F1] (PROG) ~ [F3] (SDCARD) ボタンを押して、表示する項目を選びます。

ボタン	説明
[F1] (PROG) ボタン	プログラムのバージョンを表示します。
[F2] (SAMPLE) ボタン	取り込んだユーザー・サンプル数と、ユーザー・メモリーのユーザー・サンプルの残量を表示します。
[F3] (SDCARD) ボタン	SD カードに保存している、バックアップ・データ、キット・バックアップ・データ数を表示します。

3. [EXIT] ボタンを数回押して、KIT 画面に戻ります。

工場出荷時の設定に戻す

TM-6 PRO に記憶されている設定値を、工場出荷時の状態に戻します。これをファクトリー・リセットと呼びます。

ご注意！

この操作をすると、TM-6 PRO にあるデータや設定がすべて失われます。必要なデータや設定は、SD カードに保存してください (P.39)。

ユーザー・サンプルを含めて工場出荷時の状態に戻す

ファクトリー・リセットを実行しても、削除されたプリロードのユーザー・サンプルや、ユーザー・サンプルに関連するパラメーター (P.31) は、工場出荷時の状態に戻りません。

ユーザー・サンプルを含めて工場出荷時の状態に戻すには、工場出荷時のデータの入ったバックアップを SD カードに入れて、「バックアップ・データを SD カードから読み込む」(P.39) の手順でデータを読み込みます。

工場出荷時のデータは、ローランドのホームページからダウンロードできます。

<https://www.roland.com/jp/support/>

1. SYSTEM 画面 (P.38) で「Factory Reset」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

FACTORY RESET 画面が表示されます。



2. [F3] (FACTORY RESET) ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

中止するときは「CANCEL」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

3. 「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

ファクトリー・リセットが実行されます。

エラー・メッセージ一覧

メッセージ	意味	解決方法
Format SD Card Error!	SD カードのフォーマットに失敗しました。	SD カードを正しく挿入してください。 SD カードのロックを解除してください。
Incorrect File!	バックアップ・データまたはキット・バックアップ・データが壊れています。	このデータは使用しないでください。
Length Too Long!	オーディオ・ファイルが長すぎるため、取り込みできません。	180 秒以上のファイルは取り込めません。
Length Too Short!	オーディオ・ファイルが短すぎるため、取り込みできません。	1 秒未満のオーディオ・ファイルは取り込めないことがあります。
MIDI Buffer Full!	大量の MIDI メッセージを短時間の間に受信したため、処理できません。	外部 MIDI 機器を正しく接続していることを確認してください。それでも直らないときは、TM-6 PRO へ送信する MIDI メッセージの量を少なくしてください。
MIDI Offline!	MIDI ケーブルまたは USB ケーブルが抜けました (または、何らかの原因で外部 MIDI 機器との通信がとぎれました)。	MIDI ケーブルまたは USB ケーブルの抜けや断線がないことを確認してください。
No Backup Data!	バックアップ・データが SD カードにありません。	-
No SD Card!	SD カードが SD カード・スロットに差し込まれていません。	SD カードを正しく挿入してください。
Sample Length Too Long!	オーディオ・ファイルが長すぎるため、取り込みできません。	180 秒以上のファイルは取り込めません。
Sample Length Too Short!	オーディオ・ファイルが短すぎるため、取り込みできません。	1 秒未満のオーディオ・ファイルは取り込めないことがあります。
SD Card is Locked!	SD カードがロックされています。 ファイル属性が読み取り専用になっています。	SD カードのロックを解除してください。 ファイルの読み取り専用を解除してください。
SD Card is not connected!	SD カードが SD カード・スロットに差し込まれていません。	SD カードを正しく挿入してください。
SD Card Media Error!	SD カードの内容が壊れています。	SD カード内の必要なデータをコピーしてから、SD カードを TM-6 PRO でフォーマットしてください (P.40)。それでも改善しない場合は、別の SD カードで試してください。
SD Card Memory Full!	SD カードに空き容量がありません。	不要なデータを削除してください (P.40)。
System Overload!	本体の処理が間に合いませんでした。	同時に発音する数を減らしてください。
Unsupported format!	本機でサポートされていないフォーマットです。	再生できるファイルのフォーマットかどうか確認してください (ソング (P.21)、ユーザー・サンプル (P.29))。
User Sample Does Not Exist!	ユーザー・サンプルが存在しません。	ユーザー・サンプルが存在する場所を選んでください。
User Sample Exists!	ユーザー・サンプルが存在します。	ユーザー・サンプルを削除するか、空いている場所を選んでください。
User Sample Exist! Not Enough Space to Import All.	インポート先の範囲に、ユーザー・サンプルが存在します。	ユーザー・サンプルのない範囲を確認してから、番号を選んでください。
User Sample Import Error!	インポート対象のオーディオ・データが壊れています。 SD カードの内容が壊れています。	このオーディオ・データは使用しないでください。 この SD カードは使用しないでください。
User Sample Memory Error!	ユーザー・サンプルを含む、バックアップ・データまたはキット・バックアップ・データが壊れています。 SD カードの内容が壊れています。 空のユーザー・サンプルが割り当てられています (1 Kit Save のときのみ)。	このデータは使用しないでください。 この SD カードは使用しないでください。 空のユーザー・サンプルが割り当てられているキットは、1 Kit Save できません。
User Sample memory full!	ユーザー・サンプルの空き容量がありません。	不要なユーザー・サンプルを削除してください (P.31)。

トラブルシューティング

症状	確認事項	対策	ページ
音に関するトラブル			
特定のドラム・トリガーの音が出ない	各ドラム・トリガーやペダルにケーブルが正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	P.8
	インストが「OFF」になっていませんか？	インストを割り当ててください。	P.24
	インストの「Volume」が下がっていませんか？	インストの「Volume」を調節してください。	*1
	出力の設定は正しいですか？	「Output Assign」の設定を確認してください。	P.38
	ユーザー・サンプルが削除されていませんか？	ドラム・トリガーに割り当てられているユーザー・サンプルを削除すると、音が出なくなります。 もう一度ユーザー・サンプルを取り込むか、他のインストを割り当ててください。	P.29
	ドラム・トリガーの「トリガー・タイプ」は正しく設定されていますか？	ドラム・トリガーの「トリガー・タイプ」を設定してください。	P.14
インスト B の音が出ない	インスト B が「OFF」になっていませんか？	インスト B を「ON」に設定してください。	P.24
音が出ない／音が小さい	本機と外部機器が正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	P.8
	本機の音量が下がっていませんか？		P.6
	接続しているアンプ内蔵スピーカーのボリュームが下がっていませんか？	適正なレベルに調節してください。	-
	オーディオ・システムの入力切り替えは正しいですか？	オーディオ・システムを確認してください。	-
	Local Control が「OFF」になっていませんか？	通常は「ON」に設定します。	*1
SD カードに関するトラブル			
SD カードを挿入しても認識されない／データが見えない	正しくフォーマットされていますか？	本機で SD カードをフォーマットしてください。	P.40
MP3 / WAV ファイルが再生できない	MP3 ファイルのサンプリング周波数、ビット・レート、WAV ファイルのサンプリング周波数、量子化ビット数は本機に対応していますか？	本機に対応した MP3 / WAV ファイルをご使用ください。	P.21
オーディオ・ファイルが鳴らない／取り込めない	オーディオ・ファイルの形式は正しいですか？	オーディオ・ファイルの形式、ファイル名、拡張子を確認してください。	P.29
	オーディオ・ファイルの置き場所は正しいですか？	オーディオ・ファイルの置き場所を確認してください。	P.36
	多数のオーディオ・ファイルをフォルダー内に置いていませんか？	フォルダー内のオーディオ・ファイルは、200 個以下にしてください。	-
USB に関するトラブル			
パソコンと接続できない	USB ケーブルが正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	P.7
	USB AUDIO として音声を送受信するには、USB ドライバーのインストールが必要です。	パソコンに USB ドライバーをインストールしてください。	P.41
	USB 2.0 対応のケーブルを使用していますか？	USB 3.0 対応のケーブルは使用できません。 USB 2.0 対応のケーブルを使用してください。	-
	Driver Mode は正しく設定されていますか？	使いかたに応じて変更してください。	P.41
MIDI に関するトラブル			
音が出ない	MIDI ケーブルが正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	P.7
	MIDI チャンネルは合っていますか？	本機と外部 MIDI 機器の MIDI チャンネルを合わせてください。	*1
	ノート・ナンバーは合っていますか？	ドラム・トリガーの「Note No.」を設定してください。	*1

* 1 『データ・リスト』（PDF）をご覧ください。

主な仕様

ローランド TM-6 PRO : トリガー・モジュール

キット数	100
音色数	プリセット・インスト：268 工場出荷時からユーザーサンプルとして搭載されるプリロード・サンプル：500
エフェクト	パッド・イコライザー：パッドごと（HEAD / RIM 独立） パッド・トランジェント：パッドごと（HEAD / RIM 共通） パッド・コンプレッサー：パッドごと（HEAD / RIM 共通） パッド・マルチ・エフェクト：30 種類、パッドごと（HEAD / RIM 共通） リバーブ・タイプ：5 種類 マスター・コンプレッサー マスター・イコライザー
ユーザー・サンプル	ユーザー・サンプル数：最大 1,000（プリロード・サンプル 500 個を含む） 音の長さ（合計）：モノ 48 分、ステレオ 24 分 取り込み可能なファイル形式：WAV（44.1kHz、16/24 ビット）
ソング・プレーヤー	ファイル形式：WAV（44.1kHz、16/24 ビット）、MP3（*1）
ディスプレイ	128 × 64 ドット（バックライト付）
外部メモリー	SD カード（SDHC 対応）
接続端子	TRIGGER IN 端子×6（TRS 標準タイプ） PHONES 端子（ステレオ標準タイプ） MASTER OUT 端子（L、R）（標準タイプ） DIRECT OUT 端子×4（MONO）（標準タイプ） HH CTRL 端子（標準タイプ） FOOT SW 端子（TRS 標準タイプ） MIDI OUT 端子 USB COMPUTER 端子：USB B タイプ（USB Hi-Speed AUDIO/MIDI 対応） DC IN 端子
USB オーディオ録音再生チャンネル数	サンプリング周波数（オリジナル）：44.1kHz サンプリング周波数（サンプリング・レート・コンバーター使用）：96kHz、48kHz 録音：8 チャンネル 再生：8 チャンネル
電源	AC アダプター（DC9V）
消費電力	453mA
外形寸法	228（幅）× 233（奥行）× 66（高さ）mm
質量	1.0kg（AC アダプターを除く）
付属品	AC アダプター 取扱説明書（保証書含む） 「安全上のご注意」チラシ ローランド ユーザー登録カード ネジ×4（*2）

別売品	アコースティック・ドラム・トリガー：RT シリーズ パッド：PD シリーズ、PDX シリーズ、BT シリーズ シンバル：CY シリーズ キック：KD シリーズ キック・ペダル：KT シリーズ ハイハット：VH-11、VH-10 ハイハット・コントロール・ペダル：FD シリーズ フットスイッチ：BOSS FS-5U、FS-6 パーソナル・ドラム・モニター：PM シリーズ パッド・スタンド：PDS-10 オール・パーパス・クランプ：APC-33 SD カード
-----	--

*1：オーディオ・ファイルは SD カードに保存されている必要があります。

*2：マウンティング・プレートの取り付け時に使います。

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。